
- ダイキン「第4回 現代人の空気感調査」 -

総合報告書

冬の空気と風邪に関する調査結果

平成15年11月

ダイキン工業株式会社 広報部

目次

．調査企画 1

- 1．調査目的…………… 2
- 2．調査の実施要領…………… 2
- 3．回答者の基本属性…………… 3

．調査結果の概要 5

．調査結果の詳細 10

- 1．1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月と最も汚れていると感じる月…… 11
 - (1) 1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月…………… 11
 - (2) 1年のうちで空気が最も汚れていると感じる月…………… 13
- 2．部屋の空気の汚れが気になったり心配になることの有無…………… 14
- 3．冬の季節、部屋の空気で気になるもの…………… 15
- 4．部屋の中のウイルスや細菌の気がかりの程度…………… 17
- 5．冬の部屋の空気で気を配っていること…………… 18
- 6．冬の部屋の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器…………… 20
- 7．家族の中でよく風邪をひく人…………… 21
 - (1) 家族の中で最もよく風邪をひく人…………… 21
 - (2) 最もよく風邪をひく人の風邪をひく回数…………… 22
 - (3) 家族が風邪をひく回数の増減傾向…………… 24
- 8．昨冬、自分自身は風邪をひいたか…………… 25
 - (1) 昨冬、風邪をひいたか…………… 25
 - (2) 風邪をどのようにひいたか…………… 26
 - (3) どこで誰にうつされたか…………… 27
- 9．風邪の予防対策として行っていること…………… 28
- 10．風邪をひいた時にしていること…………… 29
- 11．風邪対策として部屋の湿度をどの程度意識して調節しているか…………… 30
- 12．部屋の湿度調節の方法…………… 32
- 13．空気清浄機の使用状況…………… 33
- 14．空気清浄機の使用台数…………… 34
- 15．空気清浄機の設置場所…………… 35
- 16．空気清浄機の購入価格…………… 36
- 17．初めて空気清浄機を購入した時期…………… 37
- 18．初めて空気清浄機を購入した時に期待した機能・効果…………… 38
- 19．今後空気清浄機に期待する機能・効果…………… 40

. 調査企画

1. 調査目的

ダイキン工業は、“空気”にこだわり、また空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”についてもっと多くの方々に関心を持っていただきたいと考え、2002年より“空気”に関する現代人の意識を調査する「現代人の空気感調査」を実施しています。

12月は自動車交通量の増加、ビルや家庭の暖房の影響、更には冬特有の気象条件等により、代表的な大気汚染物質である窒素酸化物(NO_x)の濃度が特に高くなる期間です。このため、環境庁及び公害健康被害補償予防協会では、毎年12月を大気汚染防止推進月間としています。

そこで第4回目となる今回の調査では、部屋の空気が最も汚れやすい冬の時期に、主婦が部屋の空気についてどのように考え、より質の高い空気を得るためにどのような方法を試みているかを捉えてみました。特に、風邪やインフルエンザ対策と部屋の空気環境対策について、その実態を明らかにすることを目的として、500名の主婦(平均年齢45.2歳)を対象にアンケートを実施しました。

2. 調査の実施要領

(1)調査対象及びサンプル数

東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)及び大阪圏(大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県)に居住する主婦を対象としました。

Web調査登録モニターの中で、居住地および主婦という対象者条件に該当する約12万人にメール配信を行い、ほぼ500名にて回答受付を締め切る方法で、有効票数528サンプルを得ました。

(東京圏318サンプル、大阪圏210サンプル)

(2)調査方法

Web調査

(3)調査実施時期

平成15年11月1日~11月5日

(4)調査項目

- ・1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月と最も汚れていると感じる月
- ・部屋の空気の汚れが気になったり心配になったりすることの有無
- ・冬の季節、部屋の空気について気になるもの
- ・冬の部屋の空気について気を配っていること
- ・冬の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器
- ・家族の中で最もよく風邪をひく人と、風邪をひく回数
- ・昨冬に風邪をひいた経験と風邪をひいた訳
- ・風邪がはやっている時期の予防対策としていること
- ・風邪をひいた時にしていること
- ・風邪対策として冬の部屋の湿度どの程度意識して調節しているか
- ・家では空気清浄機を使っているか、空気清浄機の使用台数・設置場所・購入時期は
- ・空気清浄機に期待する機能

3. 回答者の基本属性

上段：実数、下段：割合

<年齢>

20代	30代	40代	50代	60代
92	101	120	132	83
17.4%	19.1%	22.7%	25.0%	15.7%

平均：45.2歳

<自分の職業>

フルタイム勤務	パート・アルバイト	なし（専業主婦）
87	113	328
16.5%	21.4%	62.1%

<夫の職業>

会社員・公務員	商工サービス自営	専門職	自由業	無職・その他
315	58	25	18	112
59.7%	11.0%	4.7%	3.4%	21.2%

<住居形態>

持ち家・一戸建て	持ち家・集合住宅	社宅・寮	借家・一戸建て	借家・集合住宅
231	123	18	15	141
43.8%	23.3%	3.4%	2.8%	26.7%

<家族構成>

夫婦	夫婦＋子供	夫婦＋子供＋ 祖父母（孫）	その他
159	317	43	9
30.1%	60.0%	8.1%	1.7%

<一番下の子供の年齢>

乳幼児（0～6歳）	小学生（7～12歳）	中学生（13～15歳）	高校生以上
124	46	26	164
34.4%	12.8%	7.2%	45.6%

平均：14.1歳

<70歳以上の人の同居>

いる	いない
61	467
11.6%	88.4%

<自分自身は風邪をひきやすいか>

ひきやすい方	普通	ひかない方
128	241	159
24.2%	45.6%	30.1%

<温度計（寒暖計）の所有>

ある	ない
345	183
65.3%	34.7%

<湿度計の所有>

ある	ない
215	313
40.7%	59.3%

. 調査結果の概要

1. 1年のうちで空気がきれいだと感じる月は「1月」(25.0%)、空気が汚れていると感じる月は「8月」(41.1%)

空気が最もきれいだと感じる月は「1月」(25.0%)と「10月」(20.3%)

一方、最も汚れていると感じる月は「8月」(41.1%)が断然多い

しかし低温の気象条件下では、空気の循環がうまくいかず最も空気の汚れる時期といわれており、実際とイメージとの差異が明らかに

2. 部屋の空気の汚れが気になったり心配になることが「ある」が85.0%(「たまにある」59.8%、「よくある」は25.2%)

「たまにある」(59.8%)と「よくある」(25.2%)を合わせると“ある”が85.0%を占め、「あまりない」(14.2%)と「まったくない」(0.8%)を合わせた“ない”(15.0%)を大きく上回っている

3. 冬の季節、部屋の空気で気になるものは「風邪」(77.5%)と「インフルエンザ」(72.2%)がトップ2。以下、「ハウスダストやダニ」(64.0%)、「細菌・カビ」(63.3%)が続く

「風邪」(77.5%)と「インフルエンザ」(72.2%)がトップ2となっている。以下「ハウスダストやダニ」(64.0%)、「細菌・カビ」(63.3%)などが続いている
年齢別に見ると、いずれの項目も“若い人”ほど高率を示している

4. 部屋の中のウイルスや細菌が「非常に気になる」は17.8%だが、「たまに気になることがある」(65.3%)は3分の2を占める

「非常に気になる」(17.8%)は2割弱、「たまに気になることがある」(65.3%)が全体の3分の2を占めており、「特に気にならない」(16.9%)を大きく上回っている
年代別に見ると<30代><40代>、居住地域別では<首都圏>の方が“気がかり”とする割合が高い

5. 冬の部屋の空気で気を配っていることは「換気」(92.4%)がトップ、次いで「埃やチリの除去」(61.0%)

「換気」(92.4%)が最も多く、次いで「埃やチリの除去」(61.0%)が多い。「細菌やばい菌などの除去」(18.2%)はさほど多くない
<20代>は「温度の調節」(29.3%)が他の年代より少ない

6. 冬の部屋の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器は「ファンヒーター」、「ホットカーペット」(各45.6%)、「エアコン暖房」(43.4%)がトップ3

「ファンヒーター」、「ホットカーペット」(各45.6%)、「エアコン暖房」(43.4%)がトップ3。以下「空気清浄機」(38.4%)、「加湿器」(36.2%)、「こたつ」(34.5%)が続く
<20代>は「ファンヒーター」(52.2%)、「加湿器」(47.8%)、<40代>は「ホットカーペット」(55.8%)、<60代>は「エアコン暖房」(59.0%)が他の年代より多い

7. 家族の中でよく風邪をひく人は「子供」(34.3%)、「主人」(31.3%)、「自分」(28.4%)の順。風邪をひく回数は「3～4回」(39.8%)が最も多く、平均回数は4.1回

最もよく風邪をひくのは「子供」(34.3%)が最も多く、次いで「主人」(31.3%)、「自分」(28.4%)の順。風邪をひく回数は「3～4回」(39.8%)が最も多く、平均回数は4.1回。風邪をひく増減傾向は「変わらない(横ばい)」(61.4%)が多い

最もよく風邪をひく人は、職業別に見ると<フルタイム勤務>では「自分」(34.5%)が最も多いが、<パート・アルバイト><専業主婦>では「子供」(34.5%、36.3%)が最も多く、「自分」(27.4%、27.1%)は最も少ない

8. 昨冬、自分自身が風邪を「ひいた」(68.0%)が3分の2を占める。風邪をひいた人の半数以上は「うつされた」(54.6%)とし、うつされたのは「家」で「家族から」

昨冬風邪を「ひいた」(68.0%)が3分の2を占め、「ひかなかった」(32.0%)は3分の1にとどまっている。風邪をひいた人では半数以上が「うつされた」(54.6%)としている。うつされたのは「家」(126件)で「子供」や「夫」からが圧倒的に多い

9. 風邪の予防対策としては「うがいをする」(84.5%)、「帰宅時に手や顔を洗う」(73.9%)

「うがいをする」(84.5%)が最も多く、次いで「帰宅時に手や顔を洗う」(73.9%)の順となっている。「睡眠不足とならないよう注意する」(65.5%)や「栄養を十分に摂る」(62.9%)、「換気に注意する」(55.9%)も多い

<20代>は「部屋を加湿する」(45.7%)が他の年代より多い

10. 風邪をひいた時の対策は「睡眠時間をたっぷりとる」(82.8%)、「水分を十分に摂る」(69.3%)
「栄養のあるものを摂る」(68.6%)

「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(82.8%)が断然多く、以下「水分を十分に摂るようにする」(69.3%)、「栄養のあるものを摂るようにする」(68.6%)が続いている

<40代><50代>は「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(90.8%、87.1%)がとりわけ多い

11. 風邪対策として部屋の湿度調節は「家族が風邪気味の時などは実行している」(35.4%)、「日頃から気を配っている」(31.8%)

「家族が風邪気味の時などは実行している」(35.4%)、「ほとんど意識していない」(32.8%)、「日頃から気を配っている」(31.8%)ともに3割強となっている。

<30代>は「日頃から気を配って実行している」(37.6%)、<20代>は「家族が風邪気味の時などは実行している」(39.1%)が他の年代より多い

12. 部屋の湿度調節の方法は「加湿器をつける」(182件)が圧倒的に多い

「加湿器をつける」(182件)が圧倒的に多い。そのほか、「濡れタオルを部屋にかける」(54件)「洗濯物を部屋に干す」(46件)や、「ストーブにやかんをのせる」(44件)「お湯を沸かす」(22件)などの工夫がされている

13. 空気清浄機を「使っている」(37.7%)世帯は3割強

「使っている」(37.7%)は3割強にとどまり、「使っていない」(62.3%)が6割以上を占めている

使用率は<40代>(42.5%)<首都圏>居住者(40.9%)が高い

14. 空気清浄機の使用台数は圧倒的に「1台」(76.9%)。平均使用台数は1.3台

「1台」(76.9%)が圧倒的に多く、次いで「2台」(19.1%)の順となっている。平均台数は1.3台。

年齢の高い人ほど使用台数が多い

15. 空気清浄機の設置場所は「居間」(66.8%)が圧倒的。次いで「寝室」(32.7%)

「居間」(66.8%)が圧倒的に多く、次いで「寝室」(32.7%)の順となっている。それ以外はさほど多くない

16. 空気清浄機の購入価格は「1~2.5万円未満」(42.7%)が最も多く、平均価格は2.7万円

「1~2.5万円未満」(42.7%)が最も多く、次いで「2.5~4万円未満」(33.7%)の順となっている。合わせると“1~4万円未満”が全体の76.4%を占める。平均価格は2.7万円
職業別に見ると、<パート・アルバイト><専業主婦>は「1~2.5万円未満」(55.1%、41.4%)がとりわけ多いが、<フルタイム勤務者>は「2.5~4万円未満」(50.0%)が最も多い

17. 初めて空気清浄機を購入した時期は「5年以上前」(24.1%)、「2年位前」(21.6%)、「3年位前」(17.1%)が続く

「5年以上前」(24.1%)が最も多く、以下「2年位前」(21.6%)、「3年位前」(17.1%)の順となっている

<首都圏>は「5年以上前」(28.5%)が最も多いが、<大阪圏>は「2年位前」(26.1%)が最も多い

18. 初めて空気清浄機を購入した時に期待した機能・効果は「タバコの煙や臭いの除去」(70.4%)や「ハウスダストやダニの除去」(60.3%)

「タバコの煙や臭いの除去」(70.4%)が最も多く、次いで「ハウスダストやダニの除去」(60.3%)の順となっている

<20代><30代><40代>は「花粉の除去」(54.5%、60.0%、51.0%)、<60代>は「細菌やカビの除去」「マイナスイオンなどによる癒し効果」(各54.2%)も多い

19. 今後、空気清浄機に期待したい機能・効果は「細菌やカビの除去」(77.1%)と「ハウスダストやダニの除去」(76.3%)
(初めて空気清浄機を購入した時に期待した効果で最も多かった「タバコの煙や臭いの除去」(65.5%)は第3位)

「細菌やカビの除去」(77.1%)と「ハウスダストやダニの除去」(76.3%)が多い。初めて空気清浄機を購入した時に期待した効果で最も多かった「タバコの煙や臭いの除去」(65.5%)は第3位にとどまる。「花粉の除去」(62.5%)や、初めて空気清浄機を購入した時の期待はさほど高くなかった「インフルエンザ等のウイルスの除菌」(62.1%)も多い。

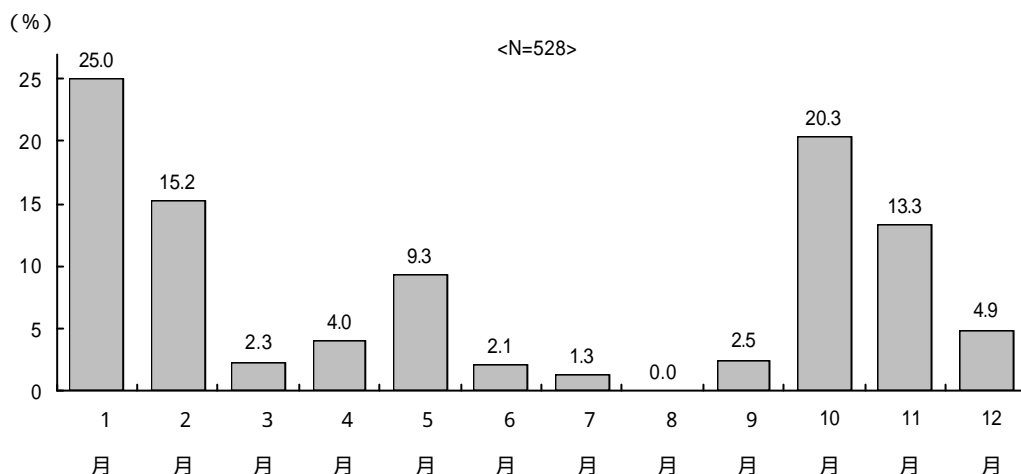
. 調査結果の詳細

1. 1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月と最も汚れていると感じる月

空気が最もきれいだと感じる月は「1月」(25.0%) が最も多く、次いで「10月」(20.3%)が多い。一方、最も汚れていると感じる月は「8月」(41.1%)が断然多い
 <40代>は最もきれいと感じる月を「1月」(35.8%)、<フルタイム勤務者>は最も汚れていると感じる月を「8月」(49.4%)とする割合がとりわけ高い

(1)空気が最もきれいだと感じる月

図1. 1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月



年齢	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
20代 <n=92>	19.6	15.2	5.4	4.3	9.8	1.1	2.2	-	4.3	15.2	10.9	12.0
30代 <n=101>	21.8	17.8	3.0	6.9	5.9	4.0	2.0	-	5.0	14.9	10.9	7.9
40代 <n=120>	35.8	13.3	0.8	4.2	10.0	3.3	0.8	-	1.7	22.5	5.0	2.5
50代 <n=132>	25.0	15.9	0.8	1.5	10.6	1.5	0.8	-	1.5	22.0	17.4	3.0
60代 <n=83>	19.3	13.3	2.4	3.6	9.6	-	1.2	-	-	26.5	24.1	-
居住地												
	首都圏 <n=318>	29.2	15.1	1.6	5.0	7.2	2.2	1.3	-	1.9	21.1	10.1
大阪圏 <n=210>	18.6	15.2	3.3	2.4	12.4	1.9	1.4	-	3.3	19.0	18.1	4.3

最も多いのは「1月」(25.0%)で、次いで「10月」(20.3%)の順となっています。そのほかに、「2月」(15.2%)、「11月」(13.3%)が1割を超えており比較的多くあげられています。全般的に晩秋から冬にかけてが、1年のうちで空気が最もきれいな時期と感じている人が多いようです。それ以外の月はいずれも1割に満たなく、きれいと感じている人はさほど多くありません。

しかし実際は、低温の気象条件のもとでは、排気ガスなどの汚れた空気などの循環が上手にいかず、代表的な大気汚染物質とされる窒素酸化物(NOx)の濃度が高くなり最も空気の汚れる時期であるといわれ、実際とイメージに差異が明らかとなりました。

年齢別に見ると、<40代>はとりわけ「1月」(35.8%)を多くあげており、他の年代を上回っています。

居住地別に見ると、<首都圏>は「1月」(29.2%)が多くやや集中する傾向が見られますが、<大阪圏>は「10月」(19.0%)、「1月」(18.6%)、「11月」(18.1%)にほとんど差がありません。

部屋のウイルス・細菌の気になるか別に見ると、<非常に気がかりという人>は「10月」(23.4%)が最も多く次いで「1月」(19.1%)の順となっていますが、<特に気にならない人>や<たまに気になる人>は「1月」(27.0%、26.1%)が最も多くなっています。

なお、風邪のひきやすさ別に見ると、<ひかない方><普通>の人は「1月」(28.3%、25.7%)という答えが<ひきやすい方>(19.5%)に比べて多くなっています。

<そう思う理由>

[1月]をあげた理由

「寒いと空気が澄んでいるように感じる」が圧倒的に多くあげられています。また、「正月は車が少ない」「正月は工場が休んでいる」と、“正月休み”のイメージも強いようです。そのほか、「星がよく見える」「富士山がよく見える」といったものもあげられています。

[10月]をあげた理由

「秋晴れで天気がよい」や「空が高い」との内容が非常に多くあげられています。また、「空気がすがすがしい」「空気がからっとして気持ちがいい」といった内容や「気候がさわやか」といったものも多くあげられています。そのほか、「冷暖房がいらぬ」といった内容もあげられています。

[2月]をあげた理由

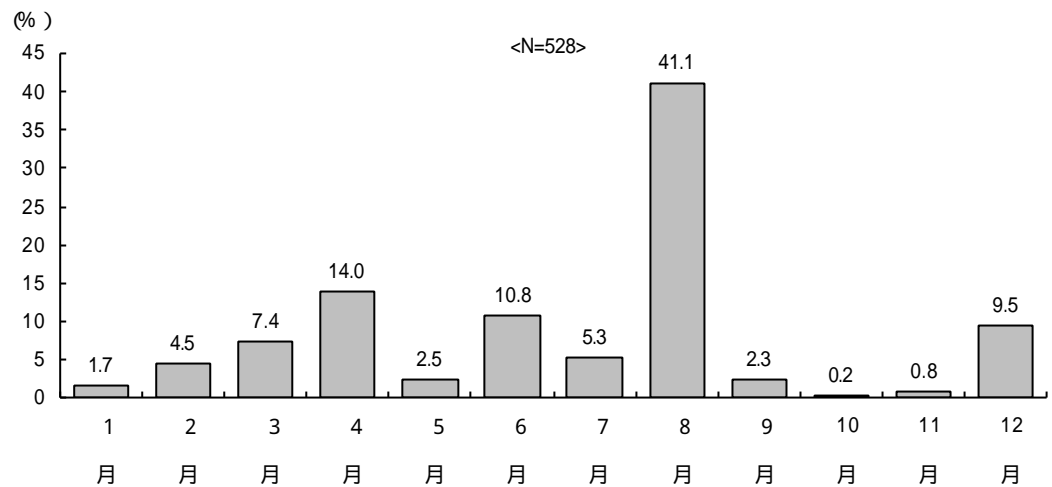
「空気が冷たくて澄んでいるように感じる」が圧倒的に多くあげられています。そのほか「景色がくっきり見える」といったものや、なかには「雨が降らないので空気が澄んでいるように感じる」との理由もあげられています。

[11月]をあげた理由

「空が高い」が最も多く、「空気がひんやりしている」も多くあげられています。そのほか、「空が青い」「晴れる日が多い」「肌寒く気持ちがよい」などがあげられています。

(2) 空気が最も汚れていると感じる月

図2 . 1年のうちで空気が最も汚れていると感じる月



年 齢	20代 <n=92>	4.3	4.3	7.6	12.0	2.2	12.0	2.2	44.6	1.1	-	1.1	8.7
	30代 <n=101>	1.0	2.0	5.9	12.9	2.0	10.9	6.9	46.5	2.0	1.0	2.0	6.9
40代 <n=120>	1.7	3.3	6.7	15.0	1.7	13.3	0.8	41.7	3.3	-	-	12.5	
50代 <n=132>	-	6.8	6.8	15.9	3.8	10.6	9.1	37.1	2.3	-	-	7.6	
60代 <n=83>	2.4	6.0	10.8	13.3	2.4	6.0	7.2	36.1	2.4	-	1.2	12.0	
居地 住域	首都圏 <n=318>	1.6	4.7	8.8	11.6	1.6	11.6	6.3	39.9	2.2	-	0.9	10.7
	大阪圏 <n=210>	1.9	4.3	5.2	17.6	3.8	9.5	3.8	42.9	2.4	0.5	0.5	7.6

「8月」(41.1%)が4割を超えており断然多くなっています。そのほかには、「4月」(14.0%)、「6月」(10.8%)が1割強あげられています。それ以外の月はいずれもわずかで、なかでも「10月」(0.2%)、「11月」(0.8%)、「1月」(1.7%)はとりわけ少ないといえます。

いずれの属性で見ても「8月」が圧倒的となっており、ほとんど大きな違いは見られません。なかでも、職業別に見た“フルタイム勤務者”(49.4%)ではとりわけ高率を示しています。

<そう思う理由>

[8月]をあげた理由

圧倒的に「蒸し暑い」が多くあげられています。また、「エアコンの室外機から汚れた空気を吹き出している」「車の排気ガスが多い」も多くあげられており、「光化学スモッグが出る」との理由も指摘されています。そのほか、「空気がよどんでいる」「遠くまで見通せない」や、さらには「湿度が高い」などもあげられています。

[4月]をあげた理由

圧倒的に「花粉」があげられています。また、「風が強く埃りっぽい」ことも多くあげられています。

[6月]をあげた理由

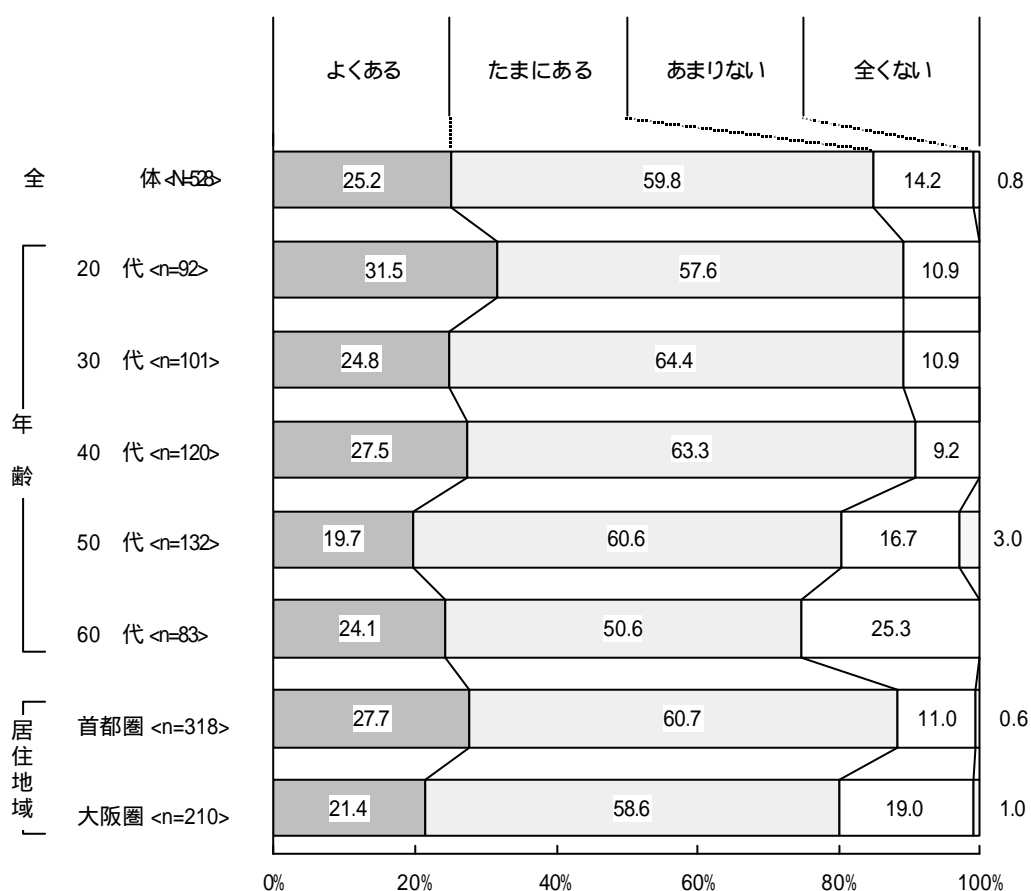
「空が暗くて、湿気が多い」「じめじめしている」「べとべと」「カビ」が多くあげられています。

2. 部屋の空気の汚れが気になったり心配になることの有無

「たまにある」(59.8%)と「よくある」(25.2%)を合わせると“ある”が85.0%を占め、「あまりない」(14.2%)と「まったくない」(0.8%)を合わせた“ない”(15.0%)を大きく上回っている

ほとんどの属性で“ある”が“ない”を大きく上回っているが、部屋のウイルス・細菌が気になるか別では<特に気にならない人>は「あまりない」(51.7%)が半数を超えるなど、“ある”(43.8%)より“ない”(56.2%)の方が多し

図3. 部屋の空気の汚れが気になったり心配になることの有無



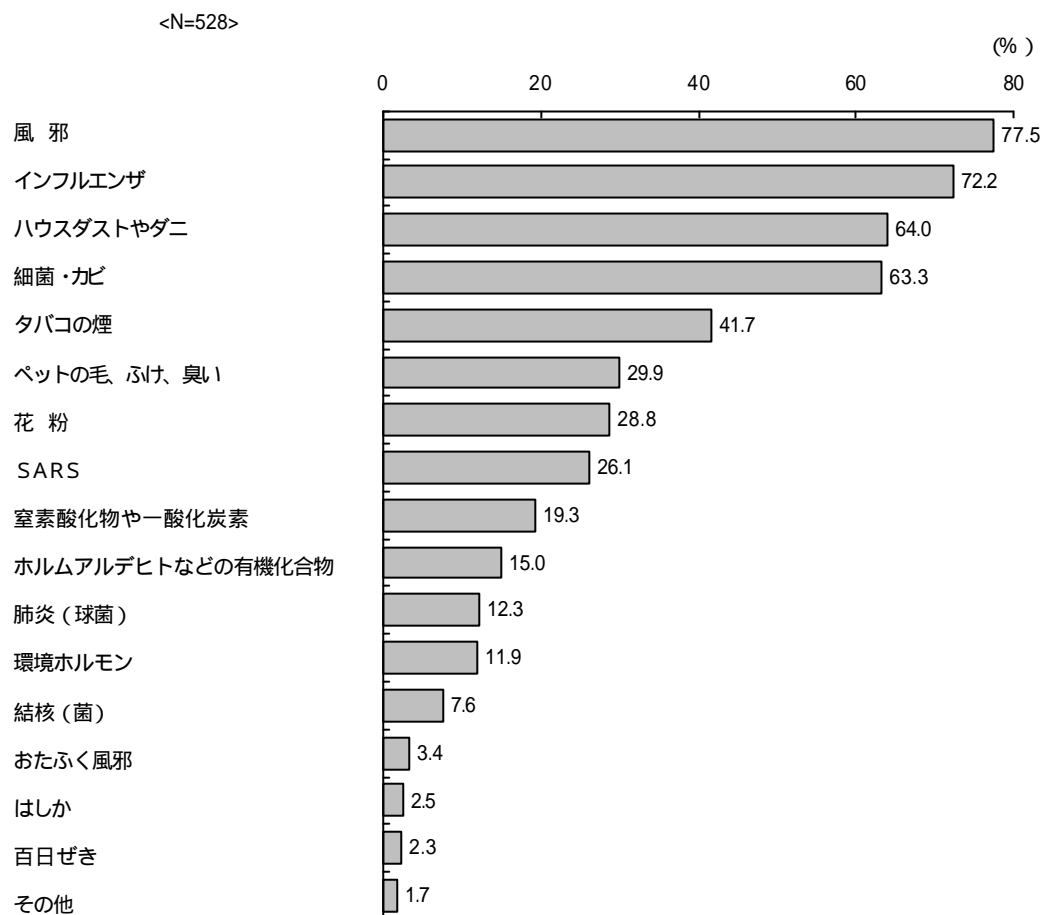
「たまにある」(59.8%)がほぼ6割を占めており、「よくある」(25.2%)を合わせると“ある”が85.0%を占め、「あまりない」(14.2%)と「まったくない」(0.8%)を合わせた“ない”の15.0%を大きく上回っています。

ほとんどの属性で「たまにある」が断然多く、全体的に“ある”が“ない”を大きく上回っており大きな違いは見られません。しかし、後の章で検証する部屋のウイルス・細菌が気になるか別に見ると、<特に気にならないという人>だけは「あまりない」(51.7%)が半数を超えるなど、“ある”(43.8%)より“ない”(56.2%)という回答が多くなっています。

3. 冬の季節、部屋の空気で気になるもの

「風邪」(77.5%)と「インフルエンザ」(72.2%)がトップ2となっている。以下「ハウスダストやダニ」(64.0%)「細菌・カビ」(63.3%)などが続く
いずれの項目も“若い人”ほど高率を示している

図4. 冬の季節、部屋の空気について気になるもの(複数回答)



最も多いのは「風邪」(77.5%)で、次いで「インフルエンザ」(72.2%)の順となっています。そのほか、「ハウスダストやダニ」(64.0%)、「細菌・カビ」(63.3%)が6割強、「タバコの煙」(41.7%)が4割強あげられています。以下、「ペットの毛、ふけ、臭い」(29.9%)、「花粉」(28.8%)、「SARS」(26.1%)などが続いています。

年齢別に見ると、いずれの項目も若い人ほど高率を示しています。若い人ほどさまざまなものが気になっている様子がうかがえます。なかでも<20代>は「風邪」(85.9%)、<30代>は「風邪」(82.2%)と「インフルエンザ」(81.2%)が断然多くなっています。

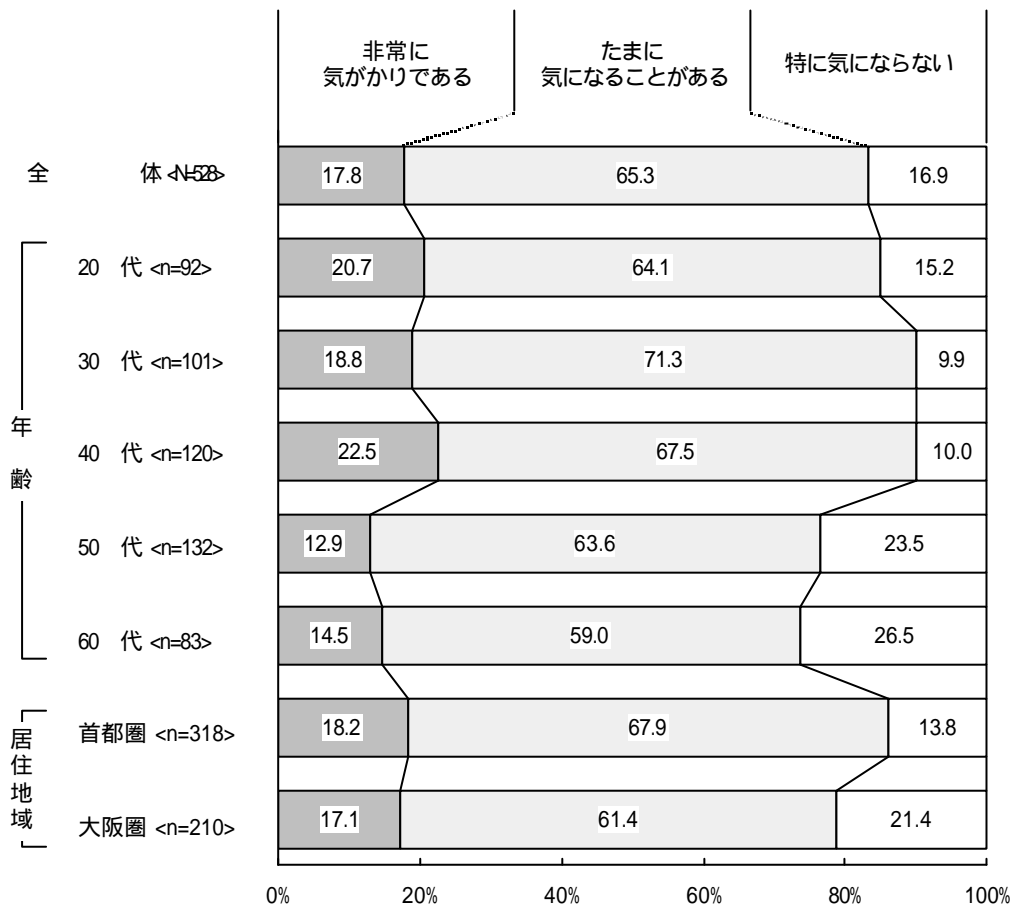
70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいない世帯>は「風邪」(78.6%)、「インフルエンザ」(73.0%)、「細菌・カビ」(64.5%)が<70歳以上の家族がいる世帯>(68.9%、65.6%、54.1%)を10ポイント前後上回っています。

風邪のひきやすさ別に見ると、<ひきやすい方という人>は「風邪」(89.8%)、「インフルエンザ」(75.8%)、「細菌・カビ」(70.3%)、「花粉」(43.0%)、「タバコの煙」(50.8%)、「ペットの毛、ふけ、臭い」(38.3%)、「SARS」(31.3%)など多くの項目で<普通という人>や<ひかない方という人>を上回っています。

4. 部屋の中のウイルスや細菌の気がかりの程度

「非常に気になる」(17.8%)は2割弱、「たまに気になることがある」(65.3%)が全体の3分の2を占め、「特に気にならない」(16.9%)を大きく上回っている
 年代別に見ると<40代><30代>、居住地別では<首都圏>の方が“気がかり”とする割合が高い

図5. 部屋の中のウイルスや細菌がどの程度気がかりか



「非常に気になる」(17.8%)は2割弱にとどまっていますが、「たまに気になることがある」(65.3%)が全体のほぼ3分の2を占めており、「特に気にならない」(16.9%)を大きく上回っています。

年代別に見ると<40代><30代>は「たまに気になることがある」(67.5%、71.3%)や「非常に気になる」(22.5%、18.8%)が他の年代を上回っており、<20代>(64.1%、20.7%)も比較的多くなっています。

居住地別に見ると、<首都圏>は「たまに気になることがある」が67.9%、「非常に気になる」が18.2%で、いずれも<大阪圏>(61.4%、17.1%)を上回っています。

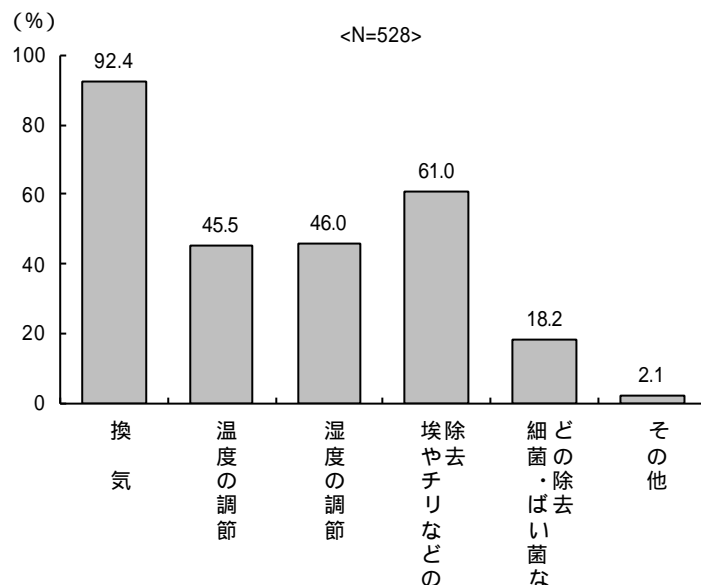
5. 冬の部屋の空気で気を配っていること

「換気」(92.4%)が最も多く、次いで「埃やチリの除去」(61.0%)が多い。「細菌やばい菌などの除去」(18.2%)はさほど多くない

年齢別に見て<20代>は「温度の調節」(29.3%)が他の年代より少ない

職業別に見て<フルタイム勤務者>は「湿度の調節」(55.2%)「温度の調節」(50.6%)、「細菌やばい菌などの除去」(23.0%)が他の職業より多い

図6. 冬の部屋の空気について気を配っていること(複数回答)



属性	項目	換気	温度の調節	湿度の調節	埃やチリなどの除去	細菌やばい菌などの除去	その他
年齢	20代 <n=92>	95.7	29.3	53.3	60.9	20.7	1.1
	30代 <n=101>	91.1	48.5	55.4	64.4	21.8	1.0
	40代 <n=120>	91.7	42.5	48.3	63.3	15.0	2.5
	50代 <n=132>	90.2	49.2	36.4	55.3	15.2	3.0
	60代 <n=83>	95.2	57.8	38.6	62.7	20.5	2.4
居住地	首都圏 <n=318>	93.4	44.7	48.7	62.3	21.7	2.5
	大阪圏 <n=210>	91.0	46.7	41.9	59.0	12.9	1.4

9割以上が「換気」(92.4%)をあげており圧倒的となっています。次いで「埃やチリの除去」(61.0%)が多く、そのほか、「湿度の調節」(46.0%)、「温度の調節」(45.5%)も半数近くがあげています。一方、「細菌やばい菌などの除去」(18.2%)はさほど多くありません。

年齢別に見てもほとんど大きな違いは見られませんが、<20代>は「温度の調節」(29.3%)が他の年代を大きく下回っています。

職業別に見ると、<フルタイム勤務者>は「湿度の調節」(55.2%)、「温度の調節」(50.6%)、「細菌やばい菌などの除去」(23.0%)が他の職業を上回っています。

70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいる世帯>は「埃やチリの除去」(70.5%)、「温度の調節」(67.2%)が<70歳以上の家族がいない世帯>(59.7%、42.6%)を大きく上回っています。その一方で、「湿度の調節」(37.7%)については<70歳以上の家族がいない世帯>(47.1%)を下回っています。

温度計の有無別に見ると、<温度計のある世帯>は「温度の調節」(51.9%)、「湿度の調節」(51.9%)が<温度計のない世帯>(33.3%、35.0%)を大きく上回っています。

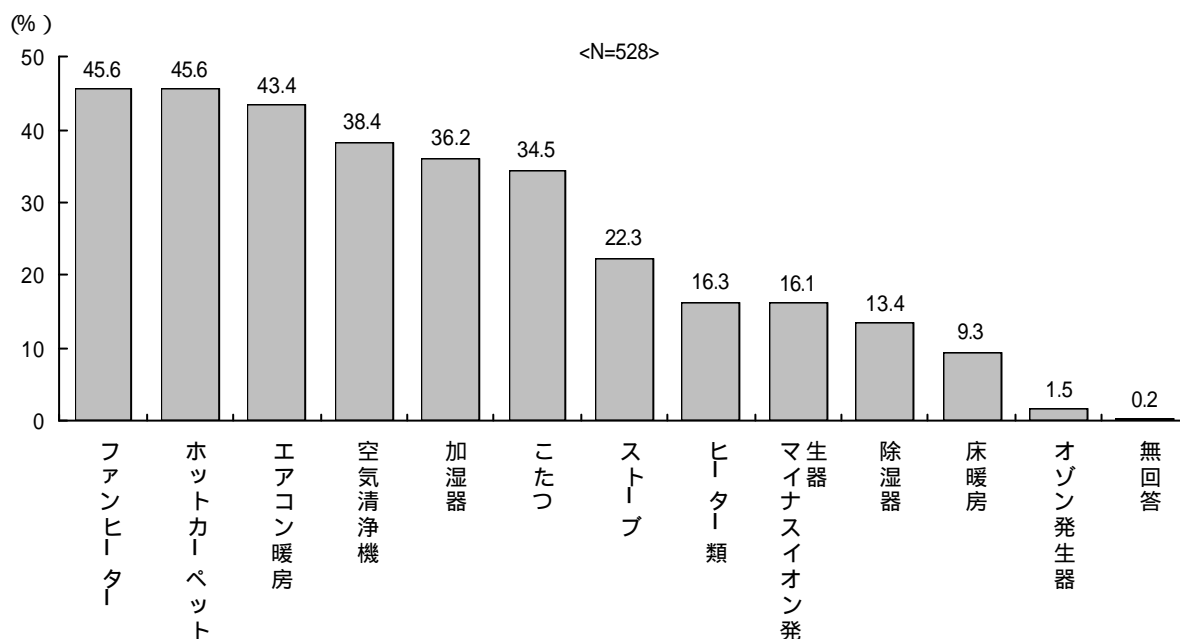
また、湿度計の有無別に見ても、<湿度計のある世帯>は「温度の調節」(52.1%)、「湿度の調節」(57.7%)が<湿度計のない世帯>(40.9%、38.0%)を大きく上回っています。

温度計や湿度計を設置している世帯ほど、空気に対して気を配っているようです。

6. 冬の部屋の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器

「ファンヒーター」、「ホットカーペット」(各 45.6%)、「エアコン暖房」(43.4%) がトップ3。以下「空気清浄機」(38.4%)、「加湿器」(36.2%)、「こたつ」(34.5%)が続く
 <20代>は「ファンヒーター」(52.2%)、「加湿器」(47.8%)、<40代>は「ホットカーペット」(55.8%)、<60代>は「エアコン暖房」(59.0%)が他の年代より多い

図7. 冬の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器 (複数回答)



半数近くが「ファンヒーター」と「ホットカーペット」(各 45.6%)をあげており、次いで「エアコン暖房」(43.4%)の順となっています。また、「空気清浄機」(38.4%)、「加湿器」(36.2%)、「こたつ」(34.5%)もともに3割以上があげています。

年齢別に見ると、<20代>は「ファンヒーター」(52.2%)、「加湿器」(47.8%)、<40代>は「ホットカーペット」(55.8%)、<60代>は「エアコン暖房」(59.0%)が他の年代に比べて多くなっています。

居住地域別に見ると、<首都圏>は「エアコン暖房」(45.9%)が最も多くなっていますが、<大阪圏>では「ファンヒーター」(51.0%)が最も多く次いで「ホットカーペット」(48.6%)の順となっています。

住まい別に見ると、<借家>は「ホットカーペット」(49.4%)、「空気清浄機」(44.3%)が<持ち家>(43.8%、35.6%)を上回っています。一方、<持ち家>は「エアコン暖房」(45.2%)が最も多く<借家>(39.7%)を上回っています。

70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいる世帯>は「ホットカーペット」(59.0%)が特に多いのに対して、<70歳以上の家族がいない世帯>は「空気清浄機」(39.0%)、「加湿器」(37.0%)が<70歳以上の家族がいる世帯>を上回っています。

風邪のひきやすさ別に見ると、<ひきやすい方という人><普通という人>は「空気清浄機」(42.2%、39.8%)、「加湿器」(40.6%、40.7%)が<ひかない方という人>(33.3%、25.8%)を上回っています。

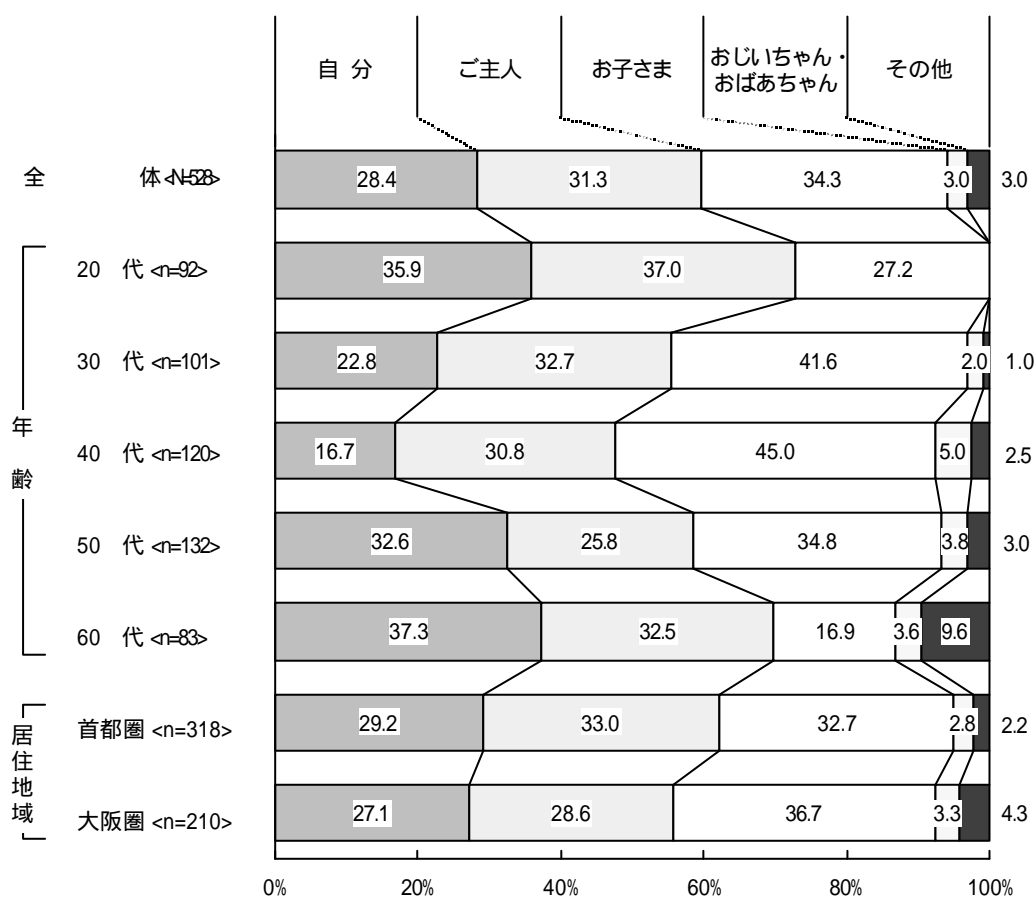
7. 家族の中でよく風邪をひく人

最もよく風邪をひくのは「お子さま」(34.3%)が最も多く、次いで「ご主人」(31.3%)、「自分」(28.4%)の順。風邪をひく回数は「3～4回」(39.8%)が最も多く、平均回数は4.1回。風邪をひく増減傾向は「変わらない(横ばい)」(61.4%)が多い

最もよく風邪をひく人は、職業別に見ると<フルタイム勤務>では「自分」(34.5%)が最も多いが、<パート・アルバイト><専業主婦>では「お子さま」(34.5%、36.3%)が最も多く、「自分」(27.4%、27.1%)は最も少ない

(1) 家族の中で最もよく風邪をひく人

図8. 家族の中で最もよく風邪をひく人はだれか



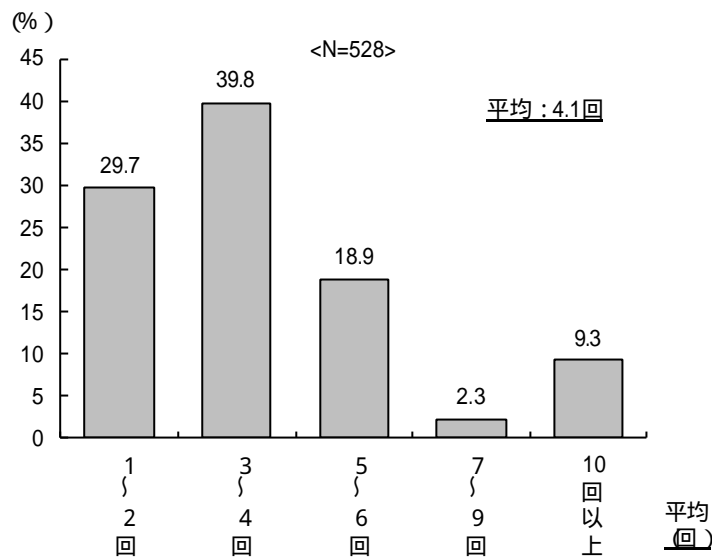
最も多いのは「お子さま」(34.3%)で、わずかの差で「ご主人」(31.3%)が続いています。また、「自分」(28.4%)も少なくありません。

年齢別に見ると、<30代><40代><50代>は「お子さま」(41.6%、45.0%、34.8%)が最も多くなっていますが、<20代>は「ご主人」(37.0%)、<60代>は「自分」(37.3%)が最も多くなっています。

職業別に見ると、<フルタイム勤務>は「自分」(34.5%)が最も多く「ご主人」(31.0%)、「お子さま」(26.4%)を上回っていますが、<パート・アルバイト><専業主婦>は「お子さま」(34.5%、36.3%)が最も多く次いで「ご主人」(31.0%、31.4%)の順で、「自分」(27.4%、27.1%)は最も少なくなっています。

(2)最もよく風邪をひく人の風邪をひく回数

図9．最もよく風邪をひく人の風邪をひく回数



年齢	回数					平均(回)
	1回	2回	3回	4回	5回以上	
20代 <n=92>	13.0	39.1	25.0	5.4	17.4	5.1
30代 <n=101>	24.8	40.6	16.8	2.0	15.8	4.8
40代 <n=120>	22.5	43.3	24.2	2.5	7.5	4.2
50代 <n=132>	43.2	38.6	13.6	0.8	3.8	3.2
60代 <n=83>	43.4	36.1	15.7	1.2	3.6	3.4
居住地						
	首都圏 <n=318>	31.4	34.3	20.1	2.2	11.9
大阪圏 <n=210>	27.1	48.1	17.1	2.4	5.2	3.7

「3～4回」(39.8%)がほぼ4割を占めており最も多くなっています。次いで、「1～2回」(29.7%)、「5～6回」(18.9%)の順となっていますが、「10回以上」(9.3%)も少なくありません。

ちなみに、平均回数は4.1回となっています。

年齢別に見ると、<20代>は「3～4回」(39.1%)が最も多いものの「10回以上」(17.4%)も2割近くを占め、平均回数は5.1回と最も多くなっています。<30代><40代>も「3～4回」(40.6%、43.3%)が最も多く、「10回以上」(15.8%、7.5%)も比較的多いなど平均回数はそれぞれ4.8回、4.2回となっています。これに対して<50代><60代>は「1～2回」(43.2%、43.4%)が最も多く平均回数は3.2回、3.4回と、年齢が高くなるほど少なくなっています。

居住地域別に見ると、<首都圏><大阪圏>ともに「3～4回」(34.3%、48.1%)が最も多くなっていますが、平均回数は<首都圏>(4.3回)が<大阪圏>(3.7回)を上回っています。

住まい別に見ると、平均回数で比べると<集合住宅>(3.9回)より<一戸建て>(4.2回)の方がやや多くなっています。

家族構成別に見ると、<夫婦>は「1～2回」(43.4%)が最も多く平均回数は3.5回にとどまっていますが、<夫婦+子供><3世代・その他>は「3～4回」(43.2%、38.5%)が最も多く平均回数も4.3回、4.4回と上回っています。

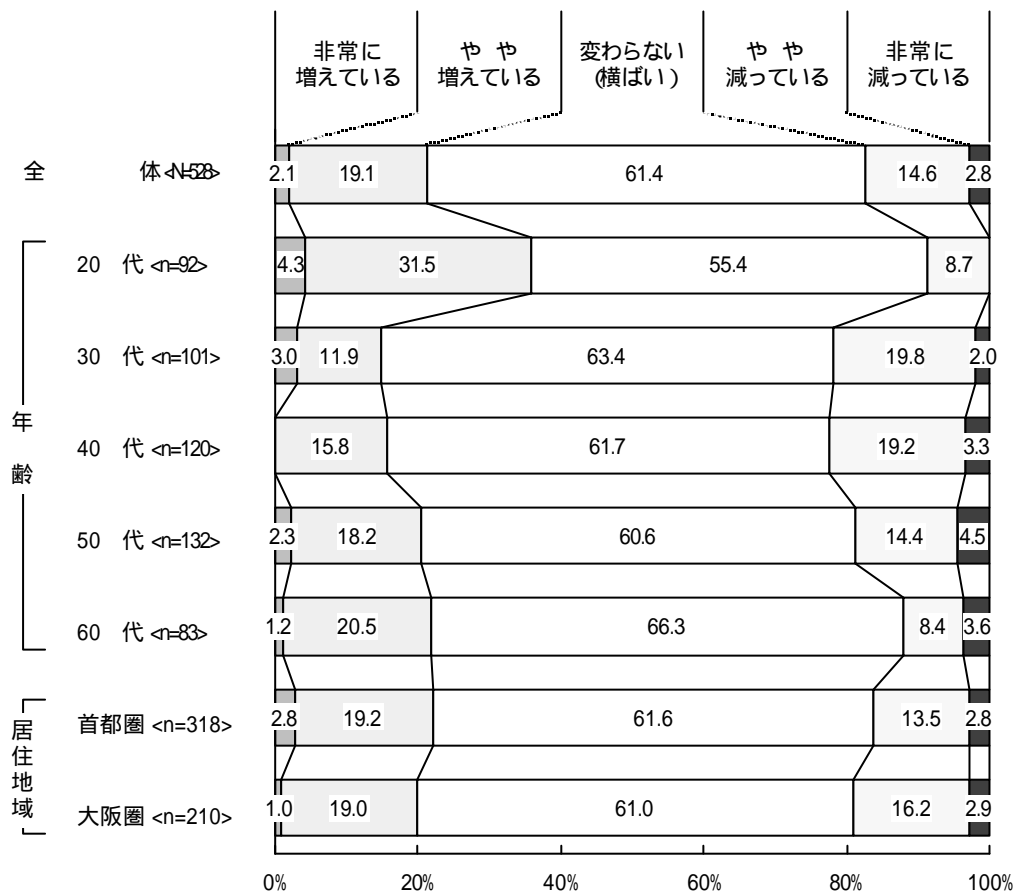
部屋の空気の気になる程度別に見ると、<気になることがよくあるという人><たまにあるという人>は「3～4回」(42.9%、39.9%)が最も多く平均回数もそれぞれ4.5回、4.1回となっていますが、<気になることがないという人>は「1～2回」(48.1%)が半数近くを占めており平均も3.3回であり、部屋の空気が気になる人ほど風邪をひく回数が多くなっています。

部屋のウイルス・細菌の気になる程度別に見ると、<非常に気がかりという人><たまに気になるという人>は「3～4回」(40.4%、42.3%)が最も多く、「10回以上」(11.7%、10.1%)も1割を超えるなど平均回数は4.7回、4.2回となっています。一方、<特に気にならないという人>は「1～2回」(53.9%)が半数を超えており平均は3.1回と、気になるという人ほど風邪をひく回数が多いという結果となっています。風邪をひきやすいからこそ、部屋の空気が気になる、あるいはウイルス・細菌が気になる状況が示唆されます。

さらに前章で検証した最もよく風邪をひく人別に見ると、平均回数を比較すると[ご主人]は3.6回と最も少ないのに対して、[自分]は4.0回、[お子さま]は4.5回を示し、さらに[おじいちゃん・おばあちゃん]は「10回以上」(18.8%)が2割近くを占めるなど平均回数は5.5回と最も多くなっています。

(3) 家族が風邪をひく回数の増減傾向

図 10 . 家族が風邪をひく回数の増減傾向



「変わらない(横ばい)」(61.4%)が6割を超え圧倒的となっていますが、「やや増えている」(19.1%)も2割近く見られます。

年齢別に見ると、<20代>は「やや増えている」(31.5%)が他の年代を上回っています。

部屋の空気の気になる程度別に見ると、<よくあるという人>は「やや増えている」(32.3%)が他を上回っており、「非常に増えている」(3.0%)を合わせると“増えている”(35.3%)が少なくありません。

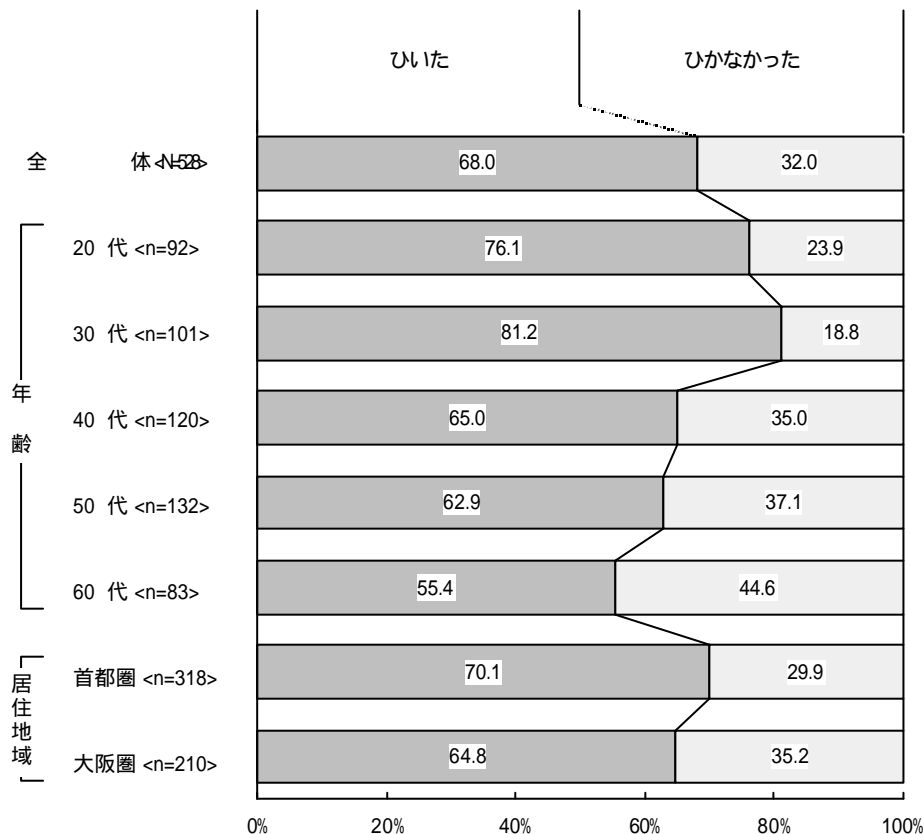
部屋のウイルス・細菌が気になる程度別に見ると、<非常に気がかりという人>では「やや増えている」(29.8%)が3割近くを示しているのに対して、<特に気にならないという人>では7.9%にとどまっています。

8. 昨冬、自分自身が風邪をひいたか

「ひいた」(68.0%)が3分の2を占め、「ひかなかった」(32.0%)は3分の1にとどまっている。風邪をひいた人では半数以上が「うつされた」(54.6%)としている。うつされたのは「家」(126件)で「子供」や「夫」からが圧倒的に多い

(1)昨冬、風邪をひいたか

図 11. 昨冬風邪をひいたか



「ひいた」(68.0%)が3分の2を占め、「ひかなかった」(32.0%)は3分の1にとどまっており、昨冬、都市圏の主婦の7割近くが風邪をひいているという結果となっています。

年齢別に見ると、<30代>は「風邪をひいた」(81.2%)が8割強、<20代>(76.1%)も7割強を示しているのに対して、<60代>(55.4%)では半数強にとどまっており、若い主婦ほど風邪をひいているという結果になっています。

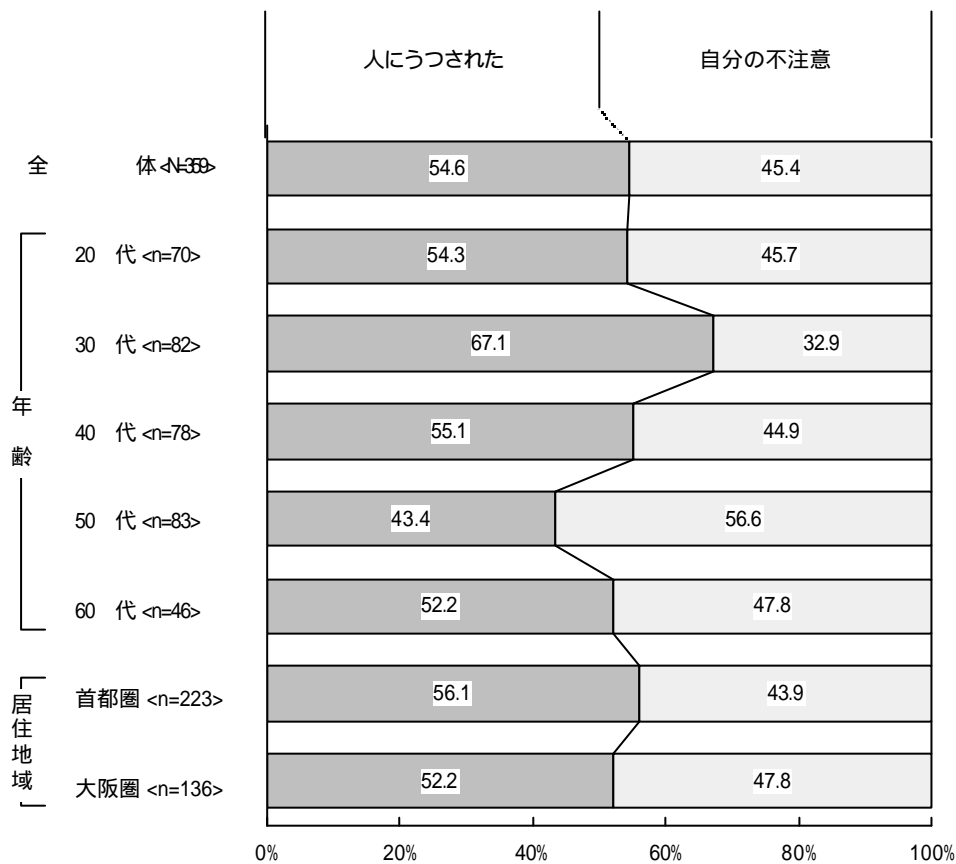
居住地別に見ると、「風邪をひいた」は<首都圏>(70.1%)が<大阪圏>(64.8%)をわずかに上回っています。

風邪のひきやすさ別に見ると、<ひきやすい方という人>は「ひいた」が94.5%を示しており、<普通という人>でも75.5%と多くなっていますが、<ひかない方という人>では35.2%にとどまっています。

部屋のウイルス・細菌の気になる程度別に見ると、<非常に気がかりという人><たまに気になるという人>は「風邪をひいた」(77.7%、70.1%)が7割を超えています、<特に気にならないという人>(49.4%)はほぼ半数にとどまっています。

(2)風邪をどのようにひいたか

図 12 . 風邪をどのようにしてひいたか



半数以上が「人につされた」(54.6%)としており、「自分の不注意」(45.4%)は4割強にとどまっています。

年齢別に見ると、<30代>は「人につされた」(67.1%)が他の年代をやや上回っています。

職業別に見ると、<専業主婦>は「人につされた」(56.2%)が<フルタイム勤務>(49.2%)、<パート・アルバイト>(54.2%)をわずかですが上回っています。

部屋の空気の気になる程度別に見ると、<よくあるという人><たまにあるという人>は「人につされた」(57.9%、55.2%)が<ないという人>(43.9%)を上回っています。

部屋のウイルス・細菌が気になる程度別に見ると、<非常に気がかりという人>は「人につされた」(64.4%)が6割を超えているのに対して、<たまに気になるという人>(53.7%)では半数強、<特に気にならないという人>(43.2%)では4割強と、部屋のウイルス・細菌を気にしている人ほど「人につされた」という回答が多くなっています。

(3)どこで誰にうつされたか

表1. どこで誰にうつされたか

どこで	誰に	専業主婦	有職主婦	合計
家	子供	49	23	72
	孫	7	1	8
	夫	31	9	40
	おばあちゃん	3	-	3
	家族	1	1	2
	ピアノのレッスンの生徒	-	1	1
職場	同僚	-	24	24
	先輩・上司	-	3	3
	お客さん	-	2	2
	患者さん(薬局)	-	2	2
	生徒に	-	1	1
電車	咳をしていた人	1	4	5
	不特定の人	2	3	5
病院	患者	5	2	7
スーパー	他人から	1	1	2
百貨店	誰かに	1	-	1
コーラス練習会場	コーラス仲間	1	-	1
音楽会の会場	隣の人に	1	-	1
集会場で	自治会の人に	-	1	1
飛行機	周りの乗客	-	1	1
友達の家	その家の子供	1	-	1
外出先	不特定の人	3	6	9
人ごみ	不特定の人	1	2	3
繁華街	不特定の人	1	1	2

「家」(126件)で“家族”からうつされることが圧倒的に多いという結果です。なかでも「子供(孫)」(80件)からうつされることが非常に多いようです。また、「夫」(40件)からうつされることも少なくありません。そのほか、「おばあちゃん」からうつされるケースも見られます。

「家」に次いでうつされるのが多いのは「職場」(32件)ということです。なかでも「同僚」(24件)からうつされることがとりわけ多いようです。

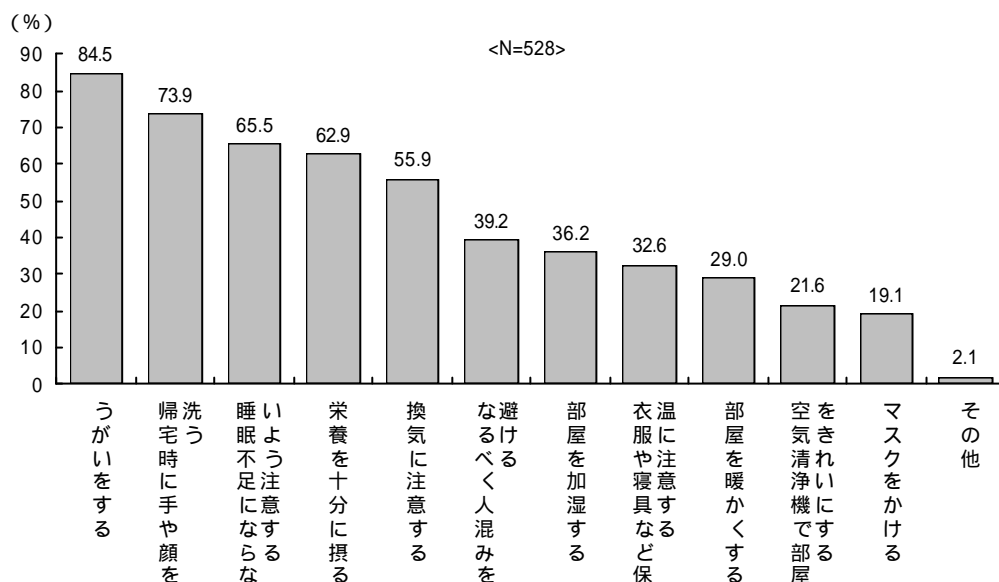
そのほか、「外出先・人ごみ」(14件)、「電車」(10件)、「病院」(7件)などで“不特定の人”からうつされることも多いようです。

なお、専業主婦の場合は「家」で「子供や夫」からうつされるケースが圧倒的に多いのに対して、有職主婦の場合は「家」でうつされるケースと「職場」でうつされるケースがほぼ半々となっています。

9. 風邪の予防対策として行っていること

「うがいをする」(84.5%) が最も多く、次いで「帰宅時に手や顔を洗う」(73.9%)の順となっている。「睡眠不足とならないよう注意する」(65.5%)や「栄養を十分に摂る」(62.9%)、「換気に注意する」(55.9%)も多い
 <20代>は「部屋を加湿する」(45.7%)が他の年代より多い

図 13. 風邪がはやっている時期に予防対策として行っていること（複数回答）



年齢	対策												
	うがいをする	帰宅時に手や顔を洗う	睡眠不足にならな	栄養を十分に摂る	換気に注意する	なるべく人混みを	部屋を加湿する	衣服や寝具など保	部屋を暖かくする	空気清浄機でする	マスクをかける	その他	
20代 <n=92>	78.3	73.9	48.9	54.3	57.6	31.5	45.7	29.3	22.8	19.6	8.7	1.1	
30代 <n=101>	84.2	77.2	66.3	64.4	55.4	36.6	38.6	30.7	26.7	20.8	17.8	2.0	
40代 <n=120>	85.8	74.2	69.2	63.3	60.0	50.0	36.7	35.0	24.2	22.5	25.8	1.7	
50代 <n=132>	85.6	67.4	69.7	65.9	54.5	38.6	30.3	31.1	34.8	24.2	18.2	3.0	
60代 <n=83>	88.0	79.5	71.1	65.1	50.6	36.1	31.3	37.3	36.1	19.3	24.1	2.4	

最も多いのは「うがいをする」(84.5%)で、次いで「帰宅時に手や顔を洗う」(73.9%)の順となっています。また、「睡眠不足とならないよう注意する」(65.5%)や「栄養を十分に摂る」(62.9%)、「換気に注意する」(55.9%)なども広く行われているようです。以下、「なるべく人混みを避ける」(39.2%)、「部屋を加湿する」(36.2%)、「部屋を暖かくする」(29.0%)、「空気清浄機で部屋をきれいにする」(21.6%)などが続いています。

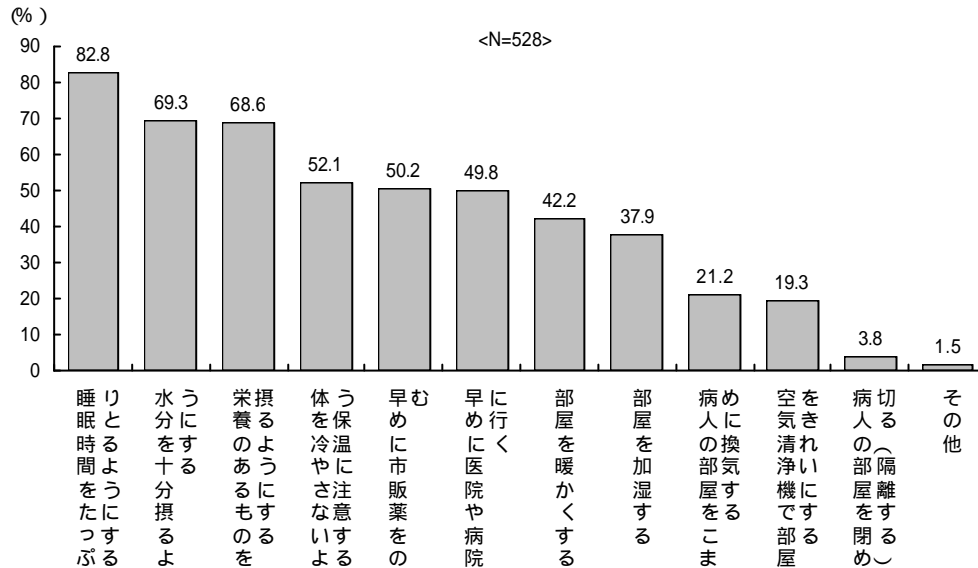
年齢別に見ると、いずれの年代も「うがいをする」「帰宅時に手や顔を洗う」が多く、風邪対策の中心となっています。また、「睡眠不足とならないよう注意する」「栄養を十分に摂る」も全体的に高率を示していますが、<20代>(48.9%、54.3%)ではこれらの行動が他の年代ほどには多くなく、「部屋を加湿する」(45.7%)が他の年代より多くなっています。

70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいる世帯>は「睡眠不足とならないよう注意する」(82.0%)が<70歳以上の家族がいない世帯>(63.4%)を大きく上回っています。

10. 風邪をひいた時にしていること

「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(82.8%)が断然多く、以下「水分を十分に摂るようにする」(69.3%)、「栄養のあるものを摂るようにする」(68.6%)が続いている
 <40代><50代>は「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(90.8%、87.1%)がとりわけ多い

図 14. 自分や家族が風邪をひいた時にしていること（複数回答）



年齢	20代 (n=92)	30代 (n=101)	40代 (n=120)	50代 (n=132)	60代 (n=83)
睡眠時間をたっぷりとるようにする	77.2	78.2	90.8	87.1	75.9
水分を十分に摂るよ	72.8	66.3	74.2	62.9	72.3
栄養のあるものを	60.9	73.3	71.7	65.9	71.1
体を冷やさないよ	54.3	51.5	48.3	53.0	54.2
早めに市販薬をの	55.4	48.5	50.8	54.5	38.6
早めに医院や病院	47.8	50.5	56.7	40.2	56.6
部屋を暖かくする	35.9	38.6	41.7	39.4	59.0
部屋を加湿する	42.4	43.6	34.2	34.8	36.1
病める人の部屋をこま	28.3	21.8	22.5	14.4	21.7
空気をきれいにする	20.7	16.8	22.5	18.2	18.1
病める人の部屋を閉め	2.2	5.0	3.3	5.3	2.4
その他	2.2	1.0	-	3.8	-

8割以上が「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(82.8%)をあげており断然多くなっています。次いで、「水分を十分に摂るようにする」(69.3%)、「栄養のあるものを摂るようにする」(68.6%)が多く、以下、「体を冷やさないように保温に注意する」(52.1%)、「早めに市販薬を飲む」(50.2%)、「早めに医院や病院に行く」(49.8%)、「部屋を暖かくする」(42.2%)などが続いています。

年齢別に見ると、<40代><50代>は「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(90.8%、87.1%)が他の年代よりとりわけ多くなっています。

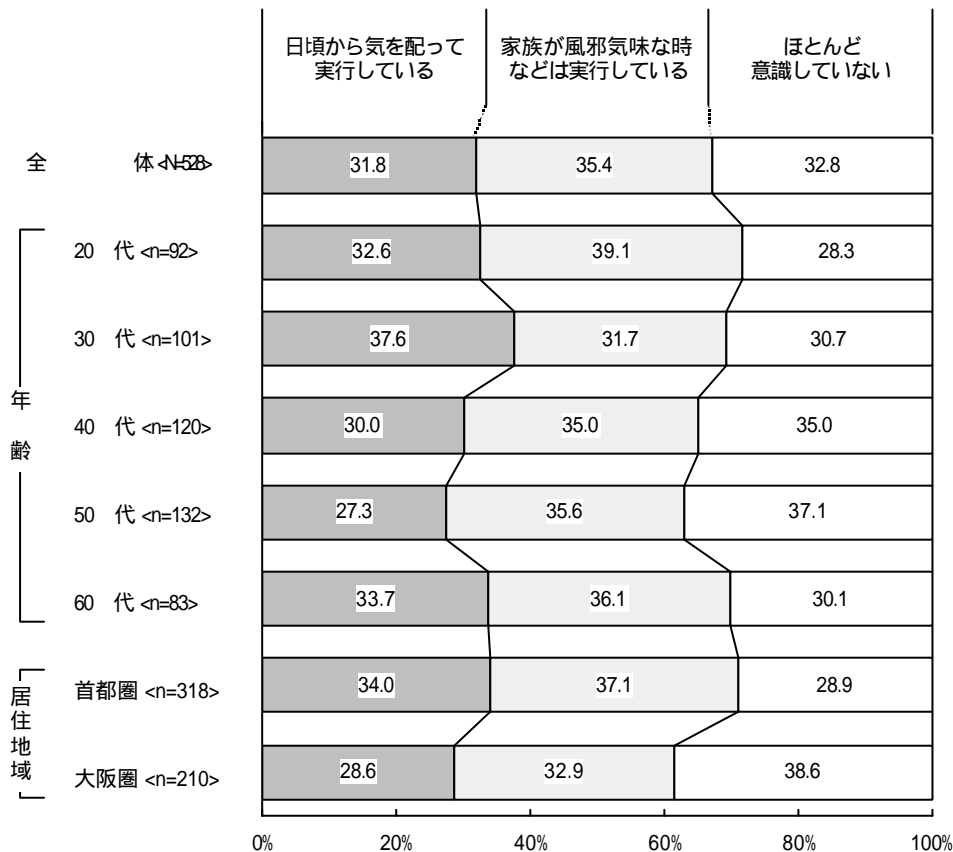
居住地域別に見ると、ほとんどの項目で<大阪圏>より<首都圏>の方が高率を示しており、<首都圏>の方がさまざまなことを試みている様子が見えます。

職業別に見ると、<専業主婦>は「部屋を暖かくする」(47.9%)が<フルタイム勤務>(29.9%)や<パート・アルバイト>(35.4%)を上回っています。

11. 風邪対策として部屋の湿度をどの程度意識して調節しているか

「家族が風邪気味の時などは実行している」(35.4%)が最も多く、「ほとんど意識していない」(32.8%)、「日頃から気を配っている」(31.8%)が続いているが、3者ほとんど差がない
 <30代>は「日頃から気を配って実行している」(37.6%)、<20代>は「家族が風邪気味の時などは実行している」(39.1%)が他の年代より多い

図 15. 風邪対策として乾燥する冬の時期に部屋の湿度をどの程度意識して調節しているか



「家族が風邪気味の時などは実行している」(35.4%)が最も多く、「ほとんど意識していない」(32.8%)が次いで多いものの、「日頃から気を配って実行している」(31.8%)も3割を超えており、3者はほとんど差がなく3分割されています。

年齢別に見ると、<30代>は「日頃から気を配って実行している」(37.6%)、<20代>は「家族が風邪気味の時などは実行している」(39.1%)が他の年代よりも多くなっています。全体的に若い人の方が“湿度を意識している”と言えるようです。

居住地域別に見ると、<首都圏>は「日頃から気を配って実行している」(34.0%)、「家族が風邪気味の時などは実行している」(37.1%)とともに<大阪圏>(28.6%、32.9%)を上回っており、<大阪圏>は「ほとんど意識していない」(38.6%)が<首都圏>(28.9%)を上回っています。

職業別に見ると、<フルタイム勤務者>は「日頃から気を配って実行している」(37.9%)が他の職業を上回っています。

家族構成別に見ると、<夫婦>は「日頃から気を配って実行している」(34.6%)が最も多くなっています。一方、<3世代・その他><夫婦+子供>は「家族が風邪気味の時などは実行している」(40.4%、36.9%)が最も高率を示しています。

12. 部屋の湿度調節の方法

「加湿器をつける」(182件)が圧倒的に多い。そのほか、「濡れタオルを部屋にかける」(54件)「洗濯物を部屋に干す」(46件)や、「ストーブにやかんを乗せる」(44件)「お湯を沸かす」(22件)などの工夫がとられている

表2. 部屋の湿度をどのように調節しているか(複数回答)

方法	数
加湿器をつける	182
濡れタオルを部屋にかける	54
洗濯物を部屋に干す	46
ストーブにやかんをのせる	44
お湯を沸かす	22
換気する	20
加湿機能付きの暖房器具を使う	10
観葉植物を置く	10
お風呂場を少し開けて部屋に湯気を通す	7
水を入れた器をおく	7
コップに水を入れておく	6
霧吹きで水をまく	5
ガスストーブを利用している。	1

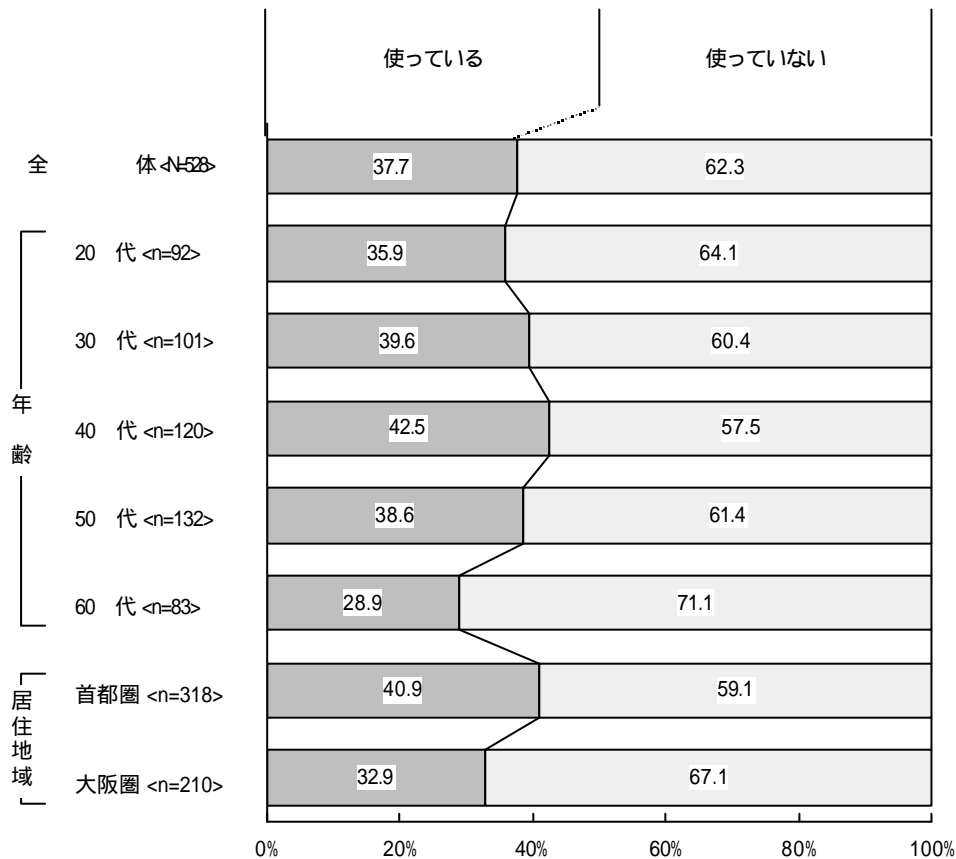
最も多いのは「加湿器をつける」(182件)で圧倒的な数となっています。また、「加湿機能付きの暖房器具を使う」(10件)もさほど多くはありませんがあげられています。加湿機能機器の活用が最も中心的な方法となっているようです。

そのほかの工夫として、「濡れタオルを部屋にかける」(54件)「洗濯物を部屋に干す」(46件)といった方法や、「ストーブにやかんを乗せる」(44件)「お湯を沸かす」(22件)といった方法もあげられています。そのほか、「観葉植物を置く」(10件)「お風呂場を少し開けて部屋に湯気を通す」(7件)といったものもあげられています。“冬の部屋の湿度調整”のために、さまざまな工夫を凝らしている様子がうかがわれます。

13. 空気清浄機の使用状況

「使っている」(37.7%)は3割強にとどまり、「使っていない」(62.3%)が6割以上を占めている
 使用率は<40代>(42.5%) <首都圏>居住者(40.9%)が高い

図 16. 空気清浄機の使用状況



「使っている」(37.7%)は3割強にとどまっており、「使っていない」(62.3%)が6割以上を占めています。

年齢別に見ると、使用率は<40代>(42.5%)が最も高く、<60代>が最も低くなっています。居住地別に見ると、使用率は<大阪圏>(32.9%)より<首都圏>(40.9%)の方が上回っています。

住まい別に見ると、使用率は「持ち家」(35.0%)より、「借家」(43.1%)、「一戸建て」(33.3%)より「集合住宅」(41.5%)の方が高くなっています。

部屋の空気の気になる程度別に見ると、使用率は<よくあるという人>では55.6%を占めていますが、<たまにあるという人>では35.4%、<ないという人>ではわずか16.5%にすぎません。

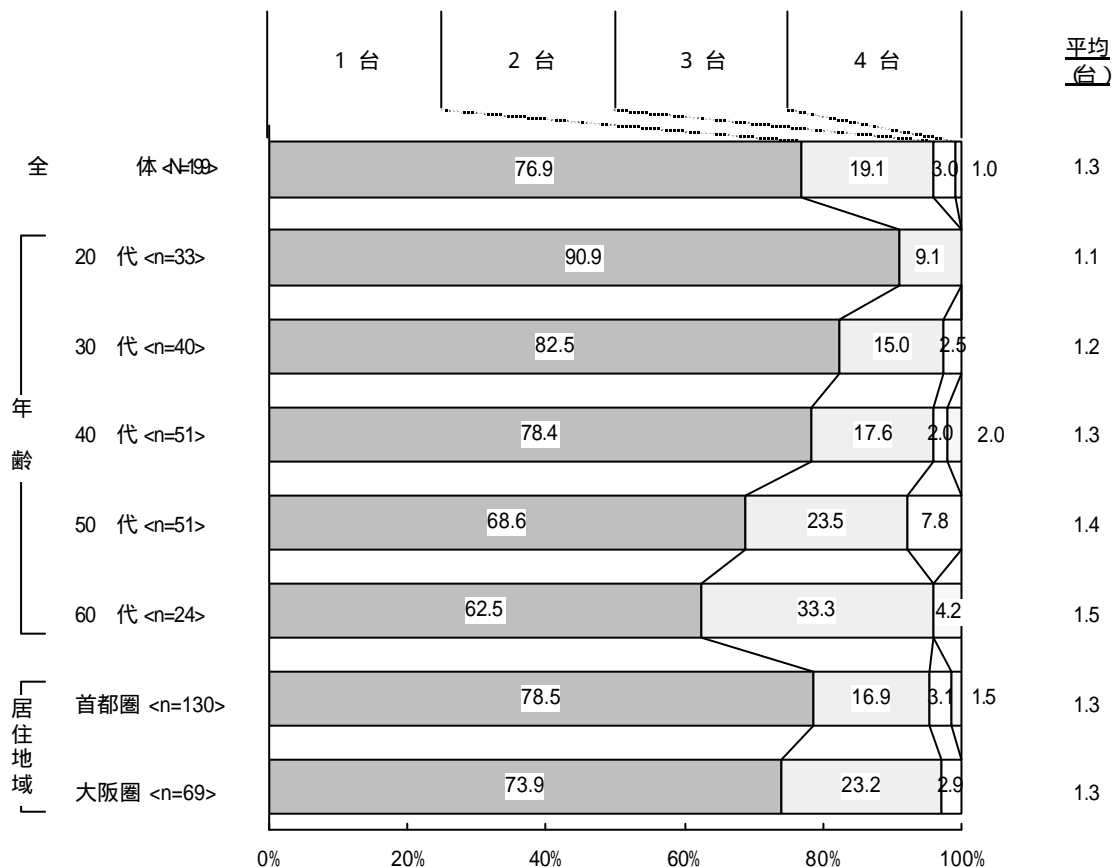
部屋のウイルス・細菌の気になる程度別に見ると、使用率は<非常に気がかりという人>は66.0%と高率を示していますが、<たまに気になるという人>では35.4%にとどまり、<特に気にならないという人>ではわずか16.9%となっています。

14. 空気清浄機の使用台数

「1台」(76.9%)が圧倒的に多く、次いで「2台」(19.1%)の順となっている。平均台数は1.3台。

年齢の高い人ほど使用台数が多い

図 17. 空気清浄機の使用台数



「1台」(76.9%)が圧倒的に多く、次いで「2台」(19.1%)の順となっています。「3台」(3.0%)、「4台」(1.0%)との回答はごくわずかです。

平均は1.3台です。

年齢別に見ると、<20代>は「1台」(90.9%)が9割を示し平均台数が1.1台となっているのに対して、<30代>は1.2台、<40代>は1.3台、<50代>は1.4台、<70代>は1.5台と、年齢が高くなるほど平均台数が多くなっています。

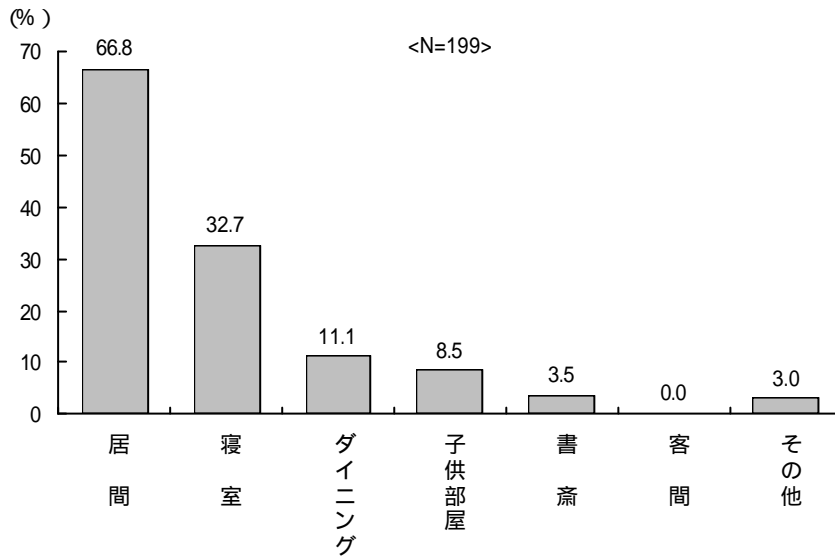
部屋の空気の気になる程度別に見ると、<よくあるという人>は「1台」が71.6%で平均台数が1.4台、<たまにあるという人>は「1台」が78.6%で平均台数が1.2台であるのに対して、<ないという人>は「1台」が92.3%を示し平均台数が1.2台となっています。

部屋のウイルス・細菌の気になる程度別に見ると、<非常に気がかりという人>は平均台数が1.4台、<たまに気になるという人>は平均台数が1.3台であるのに対して、<気にならないという人>は「1台」が93.3%と多く平均台数が1.1台にとどまっています。

15. 空気清浄機の設置場所

「居間」(66.8%)が圧倒的に多く、次いで「寝室」(32.7%)の順となっている。それ以外はさほど多くない

図 18. 空気清浄機の設置場所 (複数回答)



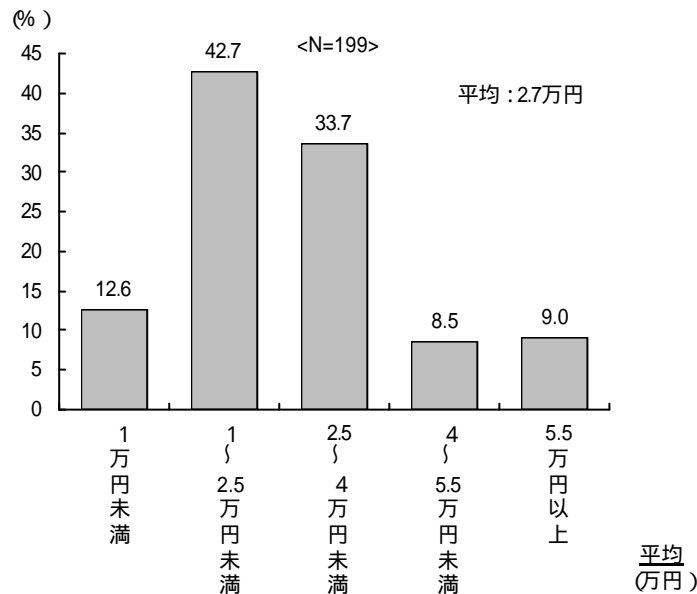
「居間」(66.8%)が圧倒的に多く、次いで「寝室」(32.7%)の順となっています。それ以外はいずれもさほど多くなく、「ダイニング」が 11.1%、「子供部屋」が 8.5%、「書斎」が 3.5%にとどまっています。

いずれの属性で見ても、大きな違いは見られません。

16. 空気清浄機の購入価格

「1～2.5万円未満」(42.7%)が最も多く、次いで「2.5～4万円未満」(33.7%)の順となっている。合わせると“1～4万円未満”が全体の76.4%を占める。平均価格は2.7万円
 職業別に見ると、<パート・アルバイト><専業主婦>は「1～2.5万円未満」(55.1%、41.4%)がとりわけ多いが、<フルタイム勤務者>は「2.5～4万円未満」(50.0%)が最も多い

図 19. 空気清浄機の購入価格（複数回答）



年齢	購入価格帯 (%)						平均 (万円)
	1万円未満	1万円～2.5万円未満	2.5万円～4万円未満	4万円～5.5万円未満	5.5万円以上		
20代 <n=33>	12.1	45.5	27.3	9.1	6.1	2.6	
30代 <n=40>	15.0	35.0	35.0	10.0	7.5	2.7	
40代 <n=51>	15.7	37.3	37.3	5.9	11.8	2.7	
50代 <n=51>	9.8	47.1	31.4	11.8	9.8	2.8	
60代 <n=24>	8.3	54.2	37.5	4.2	8.3	2.6	
居住地	首都圏 <n=130>	14.6	39.2	34.6	9.2	7.7	2.7
	大阪圏 <n=69>	8.7	49.3	31.9	7.2	11.6	2.7

「1～2.5万円未満」(42.7%)が最も多く、次いで「2.5～4万円未満」(33.7%)の順となっており、合わせると“1～4万円未満”が全体の76.4%を占めています。以下、「1万円未満」(12.6%)、「5.5万円以上」(9.0%)、「4～5.5万円未満」(8.5%)の順で続いています。

平均価格は2.7万円となっています。

年齢別に見ると、<60代><50代>は特に「1～2.5万円未満」(54.2%、47.1%)が高率を示しています。

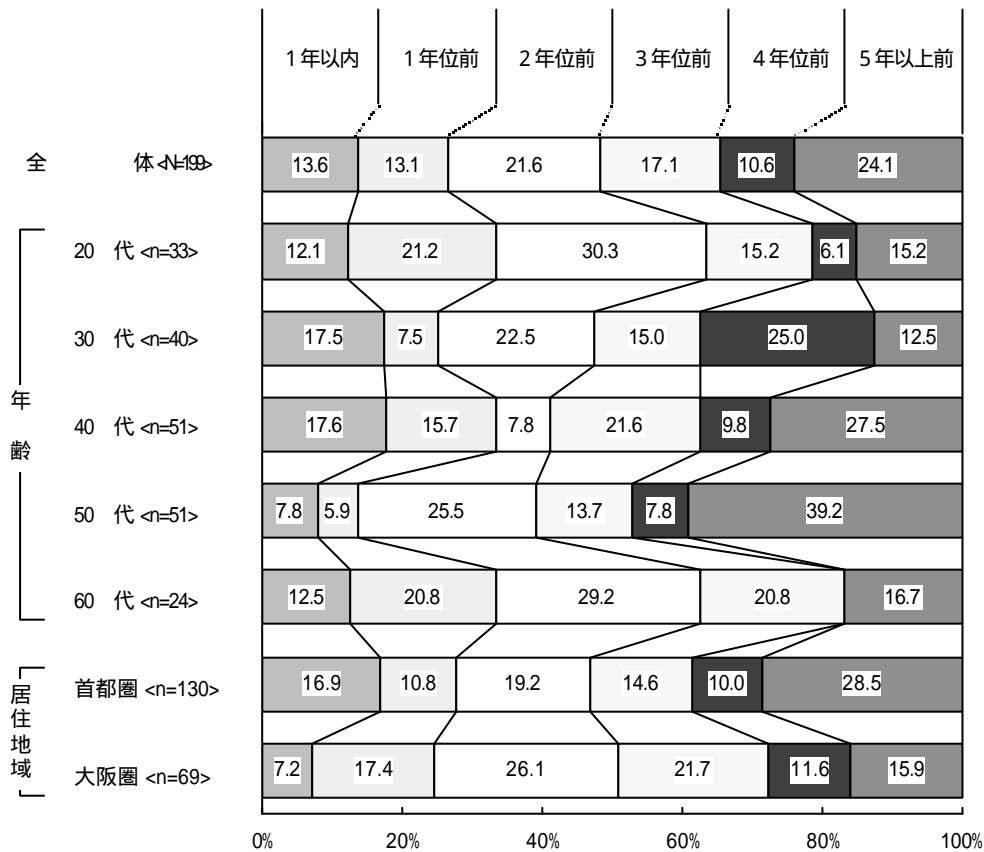
職業別に見ると、<パート・アルバイト><専業主婦>は「1～2.5万円未満」(55.1%、41.4%)がとりわけ多く中心となつてなっていますが、<フルタイム勤務者>では29.4%にとどまり「2.5～4万円未満」(50.0%)が最も多くなっています。

70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいる世帯>は「2.5～4万円未満」(40.9%)が最も多くなっていますが、<70歳以上の家族がいない世帯>では「1～2.5万円未満」(43.5%)が最も多くなっています。

17. 初めて空気清浄機を購入した時期

「5年以上前」(24.1%)が最も多く、以下「2年位前」(21.6%)、「3年位前」(17.1%)の順となっている
 <首都圏>は「5年以上前」(28.5%) <大阪圏>は「2年位前」(26.1%)が最も多い

図 20. 初めて空気清浄機を購入した時期



最も多いのは「5年以上前」(24.1%)で、次いで「2年位前」(21.6%)の順となっています。以下、「3年位前」(17.1%)、「1年以内」(13.6%)、「1年位前」(13.1%)、「4年位前」(10.6%)が続いています。

年齢別に見ると、<50代><40代>は「5年以上前」(39.2%、27.5%)が最も多くなっていますが、<30代>は「4年位前」(25.0%)、<20代><60代>は「2年位前」(30.3%、29.2%)が最も多くなっています。

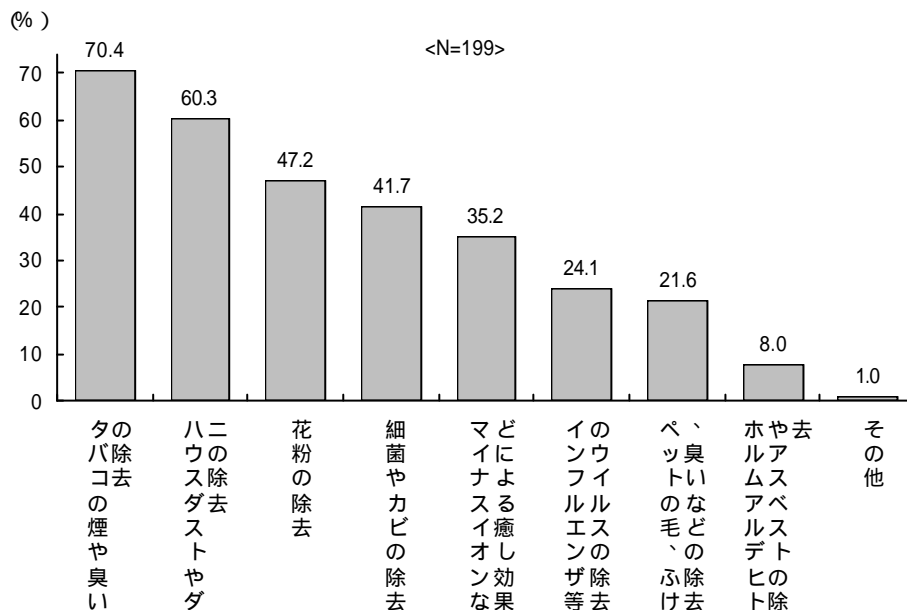
居住地域別に見ると、<首都圏>は「5年以上前」(28.5%)が最も高率を示しているのに対して、<大阪圏>は「2年位前」(26.1%)が最も多くなっています。

職業別に見ると、<フルタイム勤務者>は「2年位前」(41.2%)が4割強を示し最も多くなっていますが、<パート・アルバイト><専業主婦>は「5年以上前」(32.7%、24.1%)が最も多くなっています。

18. 初めて空気清浄機を購入した時に期待した機能・効果

「タバコの煙や臭いの除去」(70.4%) が最も多く、次いで「ハウスダストやダニの除去」(60.3%) の順となっている
 <20代><30代><40代>は「花粉の除去」(54.5%、60.0%、51.0%)、<60代>は「細菌やカビの除去」「マイナスイオンなどによる癒し効果」(各54.2%) も多い

図 21. 初めて空気清浄機を購入した時に期待した機能や効果 (複数回答)



最も多いのは「タバコの煙や臭いの除去」(70.4%) で7割があげています。次いで多いのは「ハウスダストやダニの除去」(60.3%) で、そのほか「花粉の除去」(47.2%)、「細菌やカビの除去」(41.7%)、「マイナスイオンなどによる癒し効果」(35.2%) など少なくともありません。

年齢別に見ると、いずれの年代も「タバコの煙や臭いの除去」と「ハウスダストやダニの除去」が上位を占めていますが、そのほか<20代><30代><40代>は「花粉の除去」(54.5%、60.0%、51.0%) も多くなっています。一方、<60代>は「細菌やカビの除去」「マイナスイオンなどによる癒し効果」(各54.2%) が多くなっています。

職業別に見ると、<フルタイム勤務者>は多くの項目で<パート・アルバイト><専業主婦>より高率を示しています。このことは<フルタイム勤務者>の方がより多くの効果を求めていることを示していますが、前章で検証したとおり<フルタイム勤務者>の初めての購入時期が<パート・アルバイト><専業主婦>よりかなり新しいため、購入した時に空気清浄機にさまざまな機能が付加されていたためと考えられます。

住まい別に見ると、<借家>は「ハウスダストやダニの除去」(68.0%) が<持ち家>(55.6%) より多くなっています。

70歳以上の家族の有無別に見ると、<70歳以上の家族がいる世帯>は「タバコの煙や臭いの除去」(81.8%)、「マイナスイオンなどによる癒し効果」(54.5%) が<70歳以上の家族がいない世帯>(68.9%、32.8%) を大きく上回っているのに対して、<70歳以上の家族がいない

世帯>は「ハウスダストやダニの除去」(62.1%)が<70歳以上の家族いる世帯>(45.5%)を上回っています。

部屋の空気が気になる程度別に見ると、全体的に“部屋の空気が気になる人”ほど高率を示す傾向が見られますが、なかでも「花粉の除去」はとりわけ顕著で、<部屋の空気が気になる人>は54.1%、<たまに気になる人>は46.4%で、<気にならない人>は15.4%にとどまっています。

部屋のウイルスや細菌の気になる程度別に見ると、<特に気にならないという人>は「タバコの煙や臭いの除去」(80.0%)が断然多く<非常に気がかりという人><たまに気になるという人>(66.1%、71.3%)を上回っています。一方、<非常に気がかりという人>は「ハウスダストやダニの除去」(72.6%)、「花粉の除去」(58.1%)、「細菌やカビの除去」(51.6%)が<特に気にならないという人><たまに気になるという人>を上回っています。

冬の部屋の湿度への配慮程度別に見ると、<日頃から気を配って実行しているという人>は「ハウスダストやダニの除去」(76.1%)が最も多くなっていますが、<ほとんど意識していないという人><家族が風邪気味の際は実行しているという人>は「タバコの煙や臭いの除去」(76.0%、70.5%)が最も高率を示しています。

なお、空気清浄機の購入時期別に見ると、期待した機能・効果の内容として「タバコの煙や臭いの除去」「ペットの毛・ふけ・臭いなどの除去」「ホルムアルデヒドやアスベストの除去」などは以前から期待されていたが、最近1～2年の購入では「マイナスイオンなどによる癒し効果」「インフルエンザ等のウイルスの除去」への期待が増えてきている傾向が伺えます。

購入時期	タバコの煙や臭いの除去	ハウスダストやダニの除去	花粉の除去	細菌やカビの除去	癒し効果	ウイルスの除去	ペット臭などの除去	ホルムアルデヒドなどの除去
～1年位前 (n=53)	54.7	58.5	49.1	50.9	47.2	24.5	18.9	7.5
2年位前 (n=43)	79.1	62.8	41.9	32.6	46.5	25.6	23.3	2.3
3年位前 (n=34)	73.5	47.1	41.2	50.0	26.5	32.4	23.5	8.8
4年位前 (n=21)	66.7	61.9	61.9	38.1	23.8	19.0	23.8	14.3
5年以上前 (n=48)	79.2	68.8	47.9	35.4	22.9	18.8	20.8	10.4

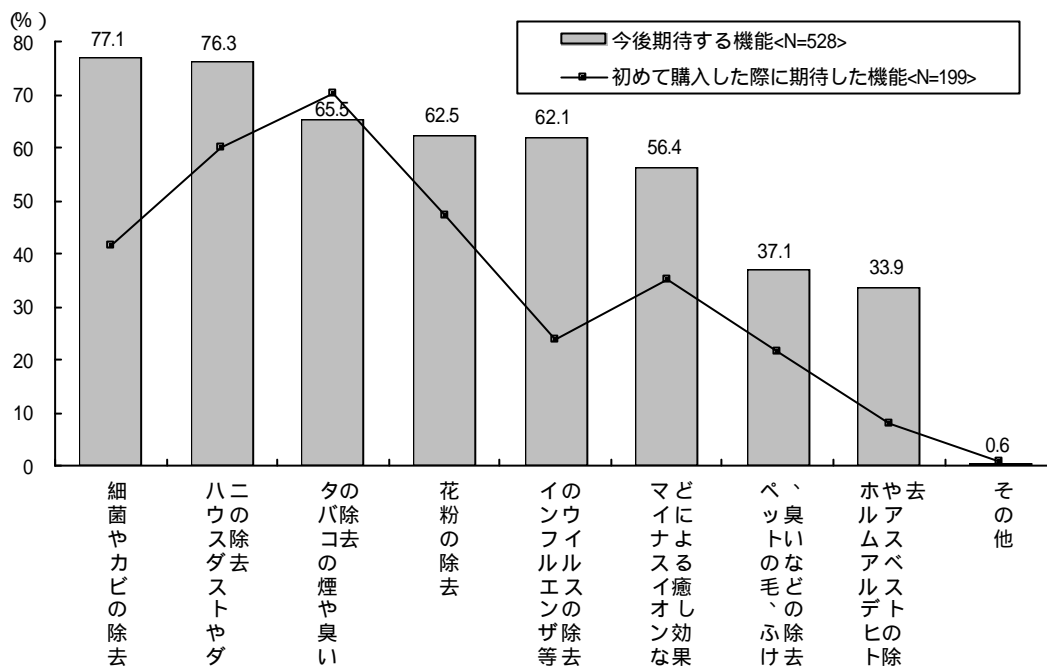
購入価格別に見ると、実売価格で25,000円以上の空気清浄機を購入している場合は、当然ながら、より多くの機能が期待されています。

購入価格	タバコの煙や臭いの除去	ハウスダストやダニの除去	花粉の除去	細菌やカビの除去	癒し効果	ウイルスの除去	ペット臭などの除去	ホルムアルデヒドなどの除去
25,000円未満 (n=107)	72.0	60.7	41.1	36.4	47.2	18.7	18.7	5.6
25,000円以上 (n=100)	69.0	63.0	54.0	50.0	46.5	31.0	25.0	11.0

19. 今後空気清浄機に期待する機能・効果

「細菌やカビの除去」(77.1%)と「ハウスダストやダニの除去」(76.3%)が多い。初めて空気清浄機を購入した時に期待した効果で最も多かった「タバコの煙や臭いの除去」(65.5%)は第3位にとどまる。以下、「花粉の除去」(62.5%)や「インフルエンザ等のウイルスの除去」(62.1%)も多い

図 22. 今後空気清浄機に期待する機能や効果 (複数回答)



最も多いのは「細菌やカビの除去」(77.1%)で、わずかの差で「ハウスダストやダニの除去」(76.3%)が続いています。初めて空気清浄機を購入した時に期待した効果で最も多かった「タバコの煙や臭いの除去」(65.5%)は第3位となっています。また、「花粉の除去」(62.5%)や、初めて空気清浄機を購入した時の期待はさほど高くなかった「インフルエンザ等のウイルスの除去」(62.1%)が6割を超え上位に入っています。初めて空気清浄機を購入した頃に期待した効果とは大きく順位が変わってきています。

いずれの属性で見ても「細菌やカビの除去」と「ハウスダストやダニの除去」がトップ2となっており、大きな違いは見られません。